

東京 陵水

賀 正
令和4年 元旦
陵水会東京支部役員一同

年頭所感

陵水会東京支部長 能島 伸夫

新年明けましておめでとうございませう。

国難とも言わねばコロナ禍の蔓延も油断は出来ませんがどうか終息の状況となり健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年は二年越しのコロナ禍の拡大とワクチン接種、オリンピック・パラリンピックの開催、菅政権から岸田政権の誕生、衆議院議員選挙ありの激動の一年でした。そんな環境下我々陵水会東京支部活動も発足後一年半が経過。これまでの主な活動と今後の展開をご報告いたします。

■会員相互間の親睦について

・昨年七月三日の総会にしましては二年続きの開催中止を避けようと万全のコロナ対策のうえリアルとバーチャルのハイブリッド方式で開催を実施し、計132名の参加者を得ました。

今年七月二日の総会では、百年記念事業の一環として次の

百年を展望するにふさわしい大学の先生と協力参加企業の方々のパネルディスカッションを企画しています。

また課題であります若手、女性会員増強に関しては担当の服部進副幹事長の旗振りのもと、スマホ（LINE公式）でのホームページ制作等を企画し、学生はもちろんOBにとつても役立ち使える人材「交流パーク」を今春三月完成に向けて準備中であります。Next Ryouseiの進化としてご期待ください。

■滋賀大学への支援

・東京支部の発案による卒業生のためのお祝い動画を昨年制作し七千回以上の視聴でこれまでにない動画として大成功だったと喜んでおります。またリーダーシップ論講義もこれまでの内容を一新し、小

目次	
1面	年頭所感(能島支部長)
2面	支部長との対談
3面	交流パークNext Ryousei
4面	令和3年度総会・収支報告
5面	講演(令和3年度総会振り返り)
6面	令和4年度総会・役員紹介
7面	ここにちには

30292824181716
面々々々々
2927241817
面面面面面

彦根思い出「ざれ食堂」
滋賀大「コロナ禍の就職状況」
寄稿・同好会だより
東京陵水文芸
年会費納入者一覧
寄付金提供者・編集室所感
広告・奥付

野教授のご指導の下「人材開発論」に即したケーススタディを展開するもので7人のOBの方に登場していただき（東京支部からは4名の講師）毎回160名を超える学生の参加で質疑応答も活発に行われ、印象深い講義となりました。



この講義の様子はビデオ撮影され大学の広報手段として活用され、ホームページへの掲載、オープンキャンパス用に展開される計画となりました。今回の卒業お祝い動画の制作やリーダーシップ論講義にご協力ご支援頂きました会員各位には改めて厚く御礼申し上げます。

最後に「着眼大局 着手小局」と申し上げました。来年初の百周年記念事業の祭典には皆様と共に祝い事を致したく今年が大変重要な年となります。

■陵水百周年記念事業について

最後に「着眼大局 着手小局」と申し上げました。来年初の百周年記念事業の祭典には皆様と共に祝い事を致したく今年が大変重要な年となります。

イベント等目の前のことを一つずつ着実に成し遂げていく「early-small success」という思いで行動していく所存ですので何卒宜しくご支援ご協力程お願い申し上げます。

新年が会員の皆様にとって幸



令和3年度総会風景（実参加とオンライン参加）

多く、また素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。

「陵水100周年に向けた東京支部の取り組み」

滋賀大学の前身、彦根高商が開設されたのは大正12（1923）年のこと。来年には100年という大きな節目を迎える。陵水会では昨年から『陵水百周年記念事業』を開始している（詳細は一般社団法人陵水会のウェブサイトを参照）。

陵水会東京支部の会員も記念事業実行委員会や各部会に名を連ねているが、多くの会員にとっては縁遠いことのように感じられる。特に20～30代の若手会員にとっては陵水会東京支部がどのような組織なのか知られていないように思う。そういった背景から、支部が生まれた経緯やどのような組織なのか、そして100周年事業についての支部の取り組みなどを東京支部長の能島さん（大22）、100周年記念事業推進委員長の脇阪さん（大21）に伺った。

【聞き手】

東京陵水編集部員 徳川（大50）、岡村、脇（ともに大51）、梅田（大53）

■陵水会発足の経緯

—— 滋賀大学経済学部OB会

である陵水会ですが、そもそもこういった経緯で生まれた組織でしょうか。

能島 脇阪さんの方が陵水会や東京支部でのご経験が長いのでぜひお願いします。

脇阪 では私から申し上げますね。彦根高商が今から100年近く前にスタートしました。当時は全国に高商ができて優秀な人材が集まったわけですが、関東大震災、あるいはその後の昭和恐慌、そして戦争へと情勢が進んでいく中で、新設高商のため卒業生が就職先を見つけないと大変苦労されたようです。そこで高商第1回の卒業生が大

学（当時は高商）の協力を得て自分たちの後輩たちのために、同窓として結束を固くして頑張

っていたという志のもと、同窓会を立ち上げた、それが陵水会の始まりです。その後、大学の

一組織から独立し、卒業生による運営が行われてきて今に至ります。

—— 卒業を迎える後輩たちのために、先に卒業した先輩方が発

起人になって陵水会というものが

生まれたというわけですね。今では各地に支部があるので就職や転勤で初めて訪れる土地であっても母校という繋がりがあ

る方にコンタクトできる環境となつていきます。驚いたことに当初は大学と一緒に生まれてたんですね。

脇阪 会長は学長が兼ねたそうです。大学と一緒に頑張っているという想いがあったのではないのでしょうか。当時の学長は「学長の最大の仕事は卒業生を

良い就職先に送ることだ」というニュアンスのことを仰っておられたそうですよ。

—— 会員の皆さんには東京支部のことをもっと知っていただき活用していただきたいですが、

そもそも普段はどんな活動をされているのでしょうか？ 知らない会員も多いはずなので教えてください。

能島 まず陵水会全体としては20の支部があつて、なんと海外（バンコク）にも支部があるのですよ。昨年3月31日現在では2万2570人の会員がいま

す。そのうち2050人が東京支部の会員です。

会員相互の親睦向上を図れるよう諸先輩方が様々なイベント・行事を組織されてこられま

して、大きなイベントとしては毎年7月第1週に総会を開催しています。昨年はコロナ禍での開催のためリアルとオンラインでのハイブリッド開催という初の試みを行いました。2019

年は約300名もの同窓生が上野精養軒に集まる盛大な会となりました。このように多くの同窓生が集まるにはネットワーク

の強化が欠かせませんから、役

員幹事会を年2回、春と秋に行

っています。役員と年次幹事から構成されており、大2回卒の方から57回卒までの計93名のOBに年次幹事として参加いただ

いています。

役員は7人おりまして、支部長の私、幹事長の中村さん、そ

して5名の副幹事長、吉本さん（兼事務局長）、田村さんと上林

さん、昨年から新しく加入され



能島支部長が語る活動の陵水会

た服部さんと北尾さん。このメンバーで活動方針等を相談する役員会も開催しています。各役員は運営全般担当や経理・総務、事務所窓口、名簿管理などそれぞれの役割を担っています。

会員の皆さんの記憶に新しいイベントでは、一昨年前、11月の三連休に開催したオンラインウェビナーがありました。

—— 昨年、卒業生に向けた大学からの祝いメッセージ動画がありました。これも東京支部が作成されたのですか？

能島 東京支部発案ではありましたが、支部単体で行ったのではなく、陵水会全体としての企画でした。在学生や卒業生の方に陵水会のことを知ってもらうきっかけになれば嬉しいです。

■ 陵水会の活動に参加したきっかけ

—— 能島さんと脇阪さんはいつから陵水会や支部の活動に加わったのですか。

能島 若いときはもう全くという言葉を使っていたくらい関与してなかったです（汗）。陵水

会の案内は、卒業してからしばらくは届いていたとは思いますが、銀行員だった私は転勤が非常に多く、海外転勤もありま

して、ゼミOBの集まりについ

ての知らせも届かないくらい本
当に離れていました。

2008年に大正銀行(当時)
の社長をしていたのですが、私
の事を新聞か何かでご覧になっ
た当時の大阪支部長である興津
さんから直接電話をいただきました
。「大学でリーダーシップ
論という講義がスタートするの
だけど、講師の一人として学生
に講義してくれないか?」とい
う依頼をいただきました。これ
が陵水会との最初のコンタクト
かもしれません。

後に東京でカブドットコム証
券(当時)の会長時代に前支部
長の竹森さんから「東京支部で
もいろいろ行事やっているので
参加してくれないか、副幹事長
になってくれないか」と依頼が
ありました。そうしてお役に立
てばと思います。

—— 協阪さんはいかがですか？

協阪 陵水会との関係を振り返
ると今から二十数年前私が日興
証券にいたとき滋賀大同窓の懇
親会がありました。その時に社
外から、前理事長である小堀さ
んや副幹事長の上林さんが特別
参加をされました。次いで十数
年前、私が新規上場のお手伝い
をしていた会社の監査役の松澤
さんが実は滋賀大の後輩だとい

うことがわかり、大いに盛り上
がり、その時「陵水会の東京支
部の総会っていうのがあるそう
ですよ。行ってみませんか?」
と誘われました。当時は永田町
あたりのホテルで開催されてい
ましたが、大先輩ばかりで五十
歳過ぎだった私も相当の威圧感
を感じるような会でした。松澤
さんと二人ですみっここのほうで



協阪委員長に質問する編集部員(左から徳川、協)

顔見合わせながら座っていたこ
と覚えています。松澤さんはそ
の後東京支部の監事に。そして
平成二十一年に私の代(大21回)
が総会の当番幹事ということだ
総会の運営を手伝ったのですが
当時の支部長だった西坂さんに
リーダーシップ論に出て欲しい
と依頼されました。その後平成

二十三年当時守谷支部長のもと
で幹事長をされていた小堀さん
から東京支部の副幹事長(事務
局長)をやってくれないかと依
頼されました。能島さんと同じ
く、何かのきっかけでお会いし
た先輩とのご縁といえます。

■同窓生同士の「接点」が生み
出す新たな関係性

—— 若いときは仕事もあるので
積極的な参加は難しいかも知れ
ませんが年次を超えた先輩と繋
がることができるメリットはあ
るようになります。陵水会や東
京支部との繋がりをもちたいと
考える会員に向けて、支部長と
して重要と考えておられる活動
はありますか？

能島 年次を超えた会員相互の
広がり、繋がりを強くするよう
に会員数を増やしたいですね。

そして会員同士の繋がりが続
いていくことが重要です。例え
ば総会に参加されるのが1回限
りという方が多いのです。現状
ではせっかく生まれた接点があ
るに切れてしまっていて非常に
残念だと感じます。総会に限ら
ず、同じ母校で学んだ繋がりが
切れずに続いて行くようにした
いです。

時にはその現状を変えようと
多くのOBが力を貸してくれる

のですが皆仕事や生活があるの
で負担になることもあります。
この3つのポイント(①会員数
を大きく②会員相互間の繋が
りを太く③永く継続的に)をなん
とか解決していきたいと考えて
います。

協阪 例えば自分たちの先輩と
気軽に会えるなど、若い人たち
に「陵水会、東京支部は便利な
仕組みだな」と思ってもらえる
ような仕組みや組織にしないと
駄目だと思っています。

例えば、サロンみたいなス
ペースがあって、会員ならいつで
もそこに行けるし、いつでも誰
かOBに会えるというような環
境ができればいいですね。夢物
語ですし、コロナ禍でもありま
す。

—— 同窓生が気軽に集まれる場
所があればふらっと行ってみた
いなっていい気になりますよね。

—— 接点ができる新たな関係
が生まれるきっかけにもなりま
すね。同窓生同士が一緒にビジ
ネス始めたり、結婚したり。

能島 接点を増やしていくこと
は非常に重要です。例えば趣味
の世界とか。支部にもゴルフ
会や散歩会、詩吟の会などの同
好会があります。もつというん
な同好会を増やしたらいいと思



クレド アドバイザーズ株式会社

代表取締役社長 門平 孝二郎 (大19回)

〒113-0034 東京都文京区湯島 2 - 4 - 3 - 403

TEL 03-6303-2455 FAX 03-6303-2456

E-mail : credo-ad@biscuit.ocn.ne.jp

います。支部としてはその活動を援助する。資金面であるとか情報面であるとか、そういう仕組みを作っていけば、関心のあることがきっかけで陵水会や支部と繋がっていくんじゃないかなと思います。

もちろん仕事でも繋がりますよね。大阪支部では業種の交流会がある。不動産部会等がありますね。慶応大学の同窓会組織である三田会は不動産会などが仕事に直結するそうです。そういう仕組みをやるうと思えば東京支部でもできないことはないはずです。こういった接点を通じて同窓会のメリットを実感してもらいたいですね。仕事や家庭を持って忙しいけど、参加したいと思ってもらえるようなメリットをね。

——卒業生やOBの繋がりを増やしていくために東京支部でやってみたいことはありますか？

能島 若手や女性会員同士の交流の場を持ちたいですね。陵水会は使えるね、面白いねというような場を。もちろん従来の行事をやめてということではなく、これまでの流れを受け継ぎながら、支部活動としては負担にはなりますが、それくらいやらないと増強なんて簡単にでき

ないでしょう。コロナ禍の状況下でますます難しい環境ですがオンライン会合のような方法もあるかもしれませんね。そんな気持ちでおります。

——私も過去にNext Ryosuiのイベントがあったとき、後輩を誘って一緒に行きました。でも後輩はそんなイベントがあることを知らなかったし、知る手段もなかったそうです。全然違う業界の人と話ができていうのはとても興味があると言っていたので、知ってもらえる環境も大事ですよ。

——ただ一人だと行きにくい。「行きたいけど一緒にどう？」と友達と話していました。

能島 やっぱり一番強い宣伝方法は口コミですね。面白かったとか、ぜひ行ってみたらいいよ、一緒に行こうとか。先輩であれば後輩であれ、同僚であれ、そう言われたら、興味持つて行きますよね。



能島支部長と梅田編集部長

協阪 私も同感です。こういう繋がりを大事にしていくことで若い方々、20・30代の卒業生が一つになれるチャンスになるのではないのでしょうか。支部活動に関する意見も若い皆さんからどんどん出していただくといいのではないかと思います。

——10年後にはどのような陵水会になっているかなど将来の展望があれば教えてください。

能島 一つの目標として、総会の参加者が結果として500人集まるような仕組みをやりたいなと思っています。簡単なことではないのも理解していますが、やっぱり目標それぞれが

ね。小さな繋がりの活動からの結果として、上野精養軒には収容できないぐらいの会になれば最高です。そのためには小さな繋がりをたくさんつくっていくことがポイントだと思います。

——支部の活動が活発になっていく一方で、東京支部は母校からも遠く離れています。東京支部だからできる滋賀大学の大学本体あるいは後輩たちへの支援はどういうものがありますか？

能島 大学への人材支援です。先ほど話に出てきたリーダーシップ論もそうですし、ゼミの先生からは「英語で講義ができる人はいませんか？」というような相談もあります。そういう意味では多種多様な卒業生が東京には集まっていると思います。そして支部活動には繋がりはないけれど活躍している人はまだまだたくさんいるはず。そういう人がいればぜひ教えて欲しいですね。私の同期でこんなことをやりたいという気持ちも大歓迎です。大学への推薦も喜んでしますよ。また、陵水人材バンクというのがありますよね。リーダーシップ論の講義だけでなく、大学の授業の充実のために貢献する意志のある人を登録できる制度があるので、そういう人を知っているのだからぜひ教えて欲しいです。もしくは私に直接連絡をくれてもいいですよ。喜んでお会いするし、大学のために協力をしてくれてありがとうとお礼に行きたいと思っています。

——今回の100周年記念事業はそういった情報や人材が集まるきっかけにもなると思うのですが、3つの事業(①SHI-KONISHIHOUSEのリアル②ビジネスサイエンス・リカレント教育の充実支援③陵水会のエンゲージメント強化)の内容はどのようにして決めたのでしょうか？

能島 我々東京支部含め、陵水会は母校あつての組織ですから大学がどの方向に向かって今動いているのかを把握しないと意味がありません。ですから、位田学長、須江副学長、小倉副学長、中野経済学部長、竹村DS学部長を交えてディスカッションを繰り返しました。陵水会からは山田理事長と副理事長の市川さんと片岡さん、そして私の計4人で学長の意向をヒアリングしながら、ディスカッションを繰り返した結果、3つの柱が決まりました。位田学長が未来創生大学、滋賀大学構想というものを発表されておられます。それを陵水会がどう支援できるかという視点で100周年記念事業の3つの柱が生まれました。詳しくは一般社団法人陵水会のホームページをご覧ください。基本計画やスケルトンとい

った情報が載っています。陵水会でも理事長や理事全員が1年半以上かけて議論し、考え抜いて作った事業内容です。

私も非常によくできていると感じます。陵水会の会員の皆さんにもご賛同をいただくことができるものと思っております。

ただ、こういった事業を遂行するためには、お金が必要なので……。東京支部の皆さんにもご賛同いただきご寄付をいただけると大変嬉しいです。この場をお借りしてお願い申し上げます。

——協阪さんは100周年記念事業においては東京支部の募金推進責任者というお立場と伺っています。

協阪 陵水会の各支部において募金目標の予算があるので、支部の中でも丹念に意見交換をして積み上げていくという考え方が原点にあります。東京支部では100周年記念事業のための委員会を組織しています。100周年記念事業のためだけでなく、同窓会としての陵水会、その組織をどう認識してもらうか、またどういう方向に向かって行くべきなのかを議論する場を作るのがこの委員会の役目かと考えています。すでに陵水会の活動に思い入れを

持つてくださっている、あるいは母校のために理解を示してくださる方がおられる一方で、特にこれまで陵水会や東京支部の活動にあまり興味をお持ちでない方も多くおられるはずで、そんな方々との繋がりをどう築いていくかというプロセスが重要だろうと話しています。

もちろん募金についてもいきなり「募金お願いします」というようなアプローチをするつもりは全くありません。例えばその方法で目標金額が集まったとしても、ただ金額が集まっただけで後には何も残りません。今回の100周年記念事業をきっかけに、先ほども話題になった小さな集団を通じて東京支部の会員同士で色々な繋がりが生まれ、あるいはさらにコミュニケーションが活性化するでしょう。すると今までないような新しい動きが生まれるという将来を狙っています。そういったプロセスを通じて、結果として支部活動や100周年記念事業への理解や賛同をいただき、募金も目標額を達成できるのではと考えています。100周年の記念式典は2023年の11月、100

限は2024年の6月までですね。

——100周年記念事業を通じて、東京支部として実現したいことを教えてください。

能島 やはり東京支部の活動に参加することで何がしかの満足感を実感してもらいたいですね。支部の活動はもちろん、100周年記念事業へも参加してくれた一人一人が「楽しかったな」とか「メリットがありそうだ」という気持ちになって欲しいですね。



協阪委員長と編集部員（協、岡村、梅田）

それをきっかけに母校との接点が高まっていくことになれば、より良いですね。そういった意味では100周年記念事業は、ある意味スタートだと思っています。

協阪 能島さんがお話しされたかったので私からも一言つけ加

えさせてください。データサイエンス学部ができて、滋賀大学がデータサイエンスの拠点の6校の一つに指定されましたよね。このことは母校の将来にとって極めて重要な出来事だと思います。

——テレワーク環境が整っている都市ランキングでは1位だったそうです。

協阪 あのローカルだった彦根に多くの注目が集まっていたんです。東京の大学でできないことが彦根にある滋賀大学なら可能だという時代が来るのではないかと期待しています。そう考えると、彦根には優秀な学生がもともと集まるでしょう。さらにその学生達を応援する若い卒業生が現れてコンタクトを強めれば、新しい陵水会の形が生まれてくるのではないのでしょうか。

データサイエンス学部の1期生も卒業し、若い方が主体の陵水会もしくは組織がスタートしていけばちょうど100周年頃には、25歳ぐらいまでの方が頑張っているはずで、彼らが社会に向けて発信することでまた注目が集まる。それが企業のようにとまれば、優秀な人を採用しようという動きに繋がる。こんな良い循環に入れるのではない

でしょうか。

——100周年は一つの区切りではあるけれども、そのタイミングは新しい陵水会のスタートでもあるわけですね。能島さん、協阪さんに長時間にわたってお答えいただき、誠にありがとうございました。

能島&協阪 ありがとうございました。

今回、能島支部長、協阪委員長にお話を伺い、お二人がこれからの陵水会、東京支部についてどのような想いを持って活動されているかをうかがい知ることができた。お話の中にもあったが、過去の支部総会を見ても若手の参加人数が少ない、参加は1回きりになることが多いように思う。また、それ以外の支部活動でも圧倒的に若手の参加率は少ない。そういった長年の課題に本気で取り組もうとされていることを知り、これからの陵水会や東京支部がどのように変わっていくか、非常に楽しみである。

これからの支部活動を活性化していくためにはたくさんの方のアイデアや若い力が必要だ。今回の記事を読んで、陵水会東京支部の活動に少しでも興味が沸

いた、あるいは参加してみたいと思われたならぜひ能島支部長はじめ支部役員にコンタクトをとってみて欲しい。きっとあな

交流パーク「Next Ryosui」について

現在のNext Ryosuiをリフレッシュして、新たに現役生、若手OBを中心とした交流パーク「Next Ryosui」を立ち上げます。

元々は陵水会東京支部で2015年から始めていた、年に1回の若手OBが集まる会が発端です。

滋賀大学の卒業生は様々な分野で活躍しています。ただ、卒業するとゼミやクラブなどの繋がりはありますが、それ以外の卒業生との交流はほとんどないのが現状です。

また、特に若手のうちはOB会というに参加するのが面倒、参加するメリットがわからない、という意見が多くみられます。

ただ、自分は卒業して30年が過ぎていますが、今になってもっと先輩、後輩と交流しておけばよかったな、と思うことが多々あります。

彦根という小さな城下町で滋賀大学という小さな大学で学んだという、たったそれだけ共通

だが今持っている繋がりがある、そう遠くない将来の新しい可能性を生むきっかけになるに違いない。

点で会社や役職、年齢の垣根を越えてもつと助け合い、高め合っている交流ができたのではないかなと。実際、恐る恐るお声をかけさせていただいたら皆さん、気軽にお話ししてください。特に、若手社会人はそんな先輩方を活かさない手はありません。

突然、知り合いのいない街や海外へ赴任することになった、経験のない職種に異動になった、今の仕事に役立つコネクションを探したいといった、ちょっとしたニーズにも対応できる、気軽にアクセスできる場があれば、もっと交流が生まれたかなと思います。

交流パーク「Next Ryosui」はそんな場にしていければと願っています。さらに、現役の学生たちとも積極的に交流することで就職前の現役生の役にも立てると思います。既に、現役生を中心に「Next Ryosui Network」というサークルが立ち上がりました。

卒業生も登録できるテンプレートとなる公式LINE、公式ホームページの立ち上げを準備しております。ぜひ、積極的に参加をいただければと思います。登録方法などは公式LINE、公式ホームページが完成次第おしらせします。

服部進（副幹事長・大37回）

令和三年度 東京支部総会

○開催日時 令和三年七月三日
(土) 午後二時～午後四時

コロナ感染が収束しないなか上野精養軒にて人数を絞り、実参加は来賓を含め45名に参集頂きました。また87名の方々はオンライン参加となり、リアルとオンラインのハイブリッド方式で計132名の参加でした。

司会では中村勝幹事長(大25回)が担当。今回の開催には大学32回の卒業生が代表当番幹事として企画、運営に当たりました。更にオンライン運営については大学50回の徳川義則さんが全面的に担当されました。

令和三年三月の滋賀大学卒業生向けメッセージビデオと彦根市のプロモーションビデオが会場スクリーンとオンライン中継

で流れる中グリークラブによる学歌斉唱ビデオで支部総会が開会しました。

第一部は能島伸夫支部長(大22回)の挨拶で始まりました。

この一年はコロナ禍のなかオンライン会議を活用しながら支部活動を実施し、陵水会は大学への支援と会員間の親睦が使命であることを確認できたとの基本メッセージがあり、大学にはリーダーシップ論の講師とビジネス英語の講師を派遣することができたとの報告がありました。

親睦としては①機関紙「東京陵水」が令和三年一月に108号を発刊②東京陵水ゴルフ会は第121回～第123回をコロナ禍中のなか奇跡的に予定どおり開催③陵水散歩会はコロナ禍の合間を縫って117回目を実施④新陵会(詩吟)が8年間継続実施。また、今後の取り組みとして2023年に陵水会

100周年記念事業が実施されます。大学の発展と年次を超えた繋がり強化に努めて行きたいと思っています。

続いて昨年十月より経済学部長になられた中野桂様よりオンラインによる挨拶を頂きました。

①経済学部の現状②学部改組の方向性③社会人コース(一年

制)導入等について説明頂きました。

次に山田督陵水会理事長よりオンラインによる挨拶を頂きました。①陵水一〇〇周年事業への積極的な参加②陵水の新しい扉を開くための総額2億円の募金目標に対して協力の依頼を述べられました。

この後、議案の審議のため、議長を出席者から選任。山本保さん(大15回)が選出されました。山本議長の議事運営により第一号議案、第二号議案、第三号議案はそれぞれ賛成多数により承認されました。

山本議長の発案により新役員が壇上に上がり、自己紹介と共に今後の支部運営に対して抱負を述べました。

ここで、コロナ感染対策の一環として10分間の休憩に入り会場の窓を開け、空気の入替えをしました。

第二部は当番幹事の水上康弘さん(大32回)の司会により始まりました。司会者から講演の日清紡ホールディングス(株)、村上雅洋代表取締役社長(大30回)の紹介があり、『繊維から電機へ、事業変革との遭遇』との演題で同社の事業変革を主導してこられた豊富なご経験を講演頂

きました。

次に当番幹事の引継ぎ式があり、今回幹事の大32回の皆さんと次回幹事の皆さんが壇上に上がられ大32回の水上康弘さんと大33回の北野英明さんから挨拶がありました。

最後に、出席者の中で最年長の富永義孝様(大7回)より締めめの挨拶を頂き、初めて赤坂プリンスホテルでの総会に出席した時のエピソードを頂きました。

中村勝幹理事長から来年度の総会は是非上野精養軒で集まりましょうと締め括りされ、令和3年度総会が幕を閉じました。

令和2年度収支報告

○貸借対照表

【資産の部】

現預金 三、〇七一、四八九

基本引当金 一、〇六〇、〇〇〇

未収金 四〇、〇〇二

合計 四、一七一、四九一

【負債・資本の部】

前受金 五一九、〇〇〇

未払金 一七、六六六

基本金 一、〇六〇、〇〇〇

次年度繰越金二、五七四、八二五

合計 四、一七一、四九一

○収支計算書

【収入の部】

年会費収入 一、二二二、〇〇〇

総会費収入 〇

寄付金収入 二二三、〇〇〇

新聞広告収入 二六〇、〇〇〇

本部活動助成金 一三六、二〇〇

雑収入 三、一四〇

前年度繰越金二、〇二九、二九八

合計 三、八七三、六三八

【支出の部】

総会費 〇

印刷費 五一九、一八五

通信費 三二二、一六六

運営費 一四九、八七二

広報活動費 一四八、〇〇〇

編集費 一五〇、〇〇〇

交通費 一、一四三

事務用品費 七、二四七

雑費 一、二〇〇

次年度繰越金二、五七四、八二五

合計 三、八七三、六三八

令和3年度収支予算

【収入の部】

年会費収入注1 一、二〇〇、〇〇〇

総会費収入 〇

寄付金収入 一五〇、〇〇〇

新聞広告収入 二六〇、〇〇〇

本部活動助成金 一三六、二〇〇

雑収入 五、〇〇〇

前年度繰越金二、五七四、八二五

合計 四、三二六、〇二五

【支出の部】

総会費注2 八〇〇、〇〇〇

印刷費 六〇〇、〇〇〇

通信費 四〇〇、〇〇〇

運営費注3,4 一〇〇、〇〇〇

手数料注5 一五〇、〇〇〇

広報活動費 二〇〇、〇〇〇

編集費 一五〇、〇〇〇

交通費 五〇、〇〇〇

事務用品費 二五、〇〇〇

雑費 五〇、〇〇〇

次年度繰越金一、八〇一、〇二五

合計 四、三二六、〇二五

注1 年会費支払者400名を目標とします。

注2 コロナ禍が長引く中、総会を2年間で中止するよりも、コロナ対策をした上で総会を開く方が、会員相互の懇親という支部の目的に合致すると判断し、会食を伴わない会場での総会とその模様をオンラインで配信するという方法で総会を開く事にしたいと思っています。

注3 10月に予定する秋季役員幹事会は、従来通りのリアルでの開催を前提とします。

注4 若手・現役学生との交流を増やす為、Next Ryosui 活動として、昨年同様のイベントを実施。

注5 運営費の内、年会費徴収時に支払う郵便局等への手数料金額の比率が大きいことから、これら手数料を運営費とは別に、手数料として、令和3年度予算から別勘定項目で管理する事にします。

講演

「繊維から電機へ、事業変革との遭遇」

村上 雅洋氏(大30回)

日清紡ホールディングス

株式会社・代表取締役社長

「会社を変えていくとは？」

事業変革を主導してこられた豊富なご経験を講演頂きました。



■事業の沿革

「多岐にわたる事業へ」

日清紡績株式会社(現 日清紡ホールディングス株式会社)は一九〇七年にできた会社です。どんなことをやっているかという点と無線通信、マイクロデバイス、半導体が主業となり、ほかにも車のブレーキ、繊維の事業もあります。

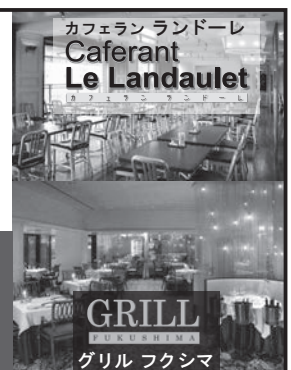
もともとは繊維から始まりました。そこから派生していった事業が車のブレーキです。名古屋の工場で綿から糸を作っていた時に、ゼロ戦のブレーキ

ご宴会・ご婚礼・出張料理
カフェランドーレ・グリルフクシマ



上野精養軒

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330
<https://www.seiyoken.co.jp>



キを作れと国の命令がありました。当時は石綿を焼き固めてブレーキ材が作られていたのですが、石綿は繊維質のものなんです。国内にある石綿でなんとか作ろうとして繊維の会社ならできるだろうということで命じられたのです。そして繊維の機械を改造して作りました。戦争が終わってゼロ戦の仕事が無くなったのですがブレーキを作る技術が残ったので、車用として続いています。アスベストから今のディスクパッドというブレーキに変わって、世界でトップシェアになっていきます。これが「分化」別れてきたという流れです。

もう一つは日本無線(株)で、無線・通信の会社です。日清紡とは何も関係の無かった会社です。元々は軍需関係の無線機の会社で戦後は仕事がなくなっていたんですね。当時の日清紡の社長に立て直しのオファーがあつて、それで関連会社ですつときています。

トになっています。

その結果、繊維が売上高比率百%の会社でしたが一九九〇年に半分以上減り、昨年には八%になりました。繊維は縮小し、それ以外が伸びたということがあります。

■経営方針の展開

「挑戦者精神を取り戻そう」

どうしてそのように事業を変えてきたかというと二〇〇六年頃に危機感を持つようになって「長期的な戦略・方針が無いよね、常に変化しないと会社は持たないよね」というのが当時の社長とのやりとりでした。「挑戦者精神を取り戻そう」と。『取り戻す』というのは、元々紡績業でやってきた時も自前の工場を増やしていったのではなく、買収で大きくなってきたんですね。そんな買収の歴史があったのに六〇%を超える自己資本比率・無借金経営が勲章という時代が何十年も続いて停滞してしまっていたんです。「もう一回M&Aしましょう！M&Aや提携を活用しましょう！」ということで改革が始まりました。

■成長戦略の方向性

「進むべき事業領域の決め手」

そんな当時、私は秘書を務めていました。経営の目標を立て

ましょうということで二〇〇八年にROEの目標を立てたのです。二〇一七年度達成しましょうと。そうして目標を決めたのでそのための売上を伸ばしましょうということはいよいよ新規事業とM&Aを進めていくことになりました。

ではどんな領域で？という

と、伸びていくのは人間社会のニーズに合致している領域、まさにそれは経営理念に通じる所ですね、そこを攻めましょうとなりました。そして環境問題にソリューションを提供する事業にしていきましょう、と決めたのです。それで環境、エネルギー、情報通信を取り込んだ事業体に変えていこうとしました。当てがあつたわけではありませんが、日本無線(株)、新日本無線(株)というエレクトロニクスの関連会社を軸にしていこうことを決め、M&Aを始めました。

■M&Aについて

「ポリシーを持つて」

二〇〇五年にマイクロデバイスで新日本無線(株)を連結子会社化しました。このときの経験が一番活かしています。学ぶことがありました。社外取締役を入れるとかガバナンスの体制を変えるところかですね。そこは取り入れ

させていただきました。

二〇一七年には七〇年続けてきた紙製品事業を大王製紙(株)に譲渡しました。シャワートイレのための吸水力2倍トイレットペーパーとか(今のエリエール)柔らかいティッシュペーパーが強かった。でもそれしかなかったんです。紙の業界は巨大な設備投資が必要ですからそれを本業にしている会社自身を寄せることもハッピーになるのではないかとということでお譲りしました。大王製紙(株)の傘下に入っ

てすぐに投資され、全国で売れるようになって生産能力が上がりました。従業員にとってマイナスになるようなM&Aやカーブアウトはしたくないというポリシーを持っています。

その後、リコー電子デバイス(株)を買収して紙製品事業の逆の事例ですね。リコーさんでプリンターやコピー機のパーツとして半導体を始めた事業部が会社になったのですがリコーさんの中では主力ではなかったんです。それを切り出されるということで買いました。日清紡にとつてはメインの事業だったのですぐ投資しました。リコー電子デバイスの従業員の方も喜んで

もらえたケースですね。

■M&Aを進めるにあたって

「3つのポイント」

M&Aは簡単ではなく成功確率は低いんです。そんな中で大事にしていることは、目的は明確に、最後までやりきること。状況から途中で辞める判断をすることもあります。ポイントは環境エネルギーカンパニーとしてやっていくという戦略にあつてはどうか。友好的であること、顧客にとって、従業員にとってよいことをベースにしています。

■二〇二一年度経営方針

「膨張から成長へ」

どんな絵を描いても儲かっていなかったら耳を貸してもらえないから業績を立て直すのが急務。そして正しく儲けるということです。古い経営体制を引っ張ったままでは事業が『膨張』してしまふ。『成長』に戻さなければいけません。安全衛生を基本として改善活動によって結果を出していこうと取り組んでいます。

■事業変革に遭遇した経緯

「日清紡での職歴三九年」

元々は女子寮管理で労務を担当していました。試練も学びもありました。それを経て新規事

業の立ち上げに携わりそこで失敗も経験し、その後管理部門を渡り歩いて今に至っています。上司に恵まれて普段から経営戦略に携わり、自分で描いた絵を自分で実行しなければならぬめぐり合わせになってきました。

普段から、役職というのはフィクションだよ、社長って肩書きは偉そうだけど人間は偉くないよ、と従業員に言っています。たまたまその仕事を任されてやっているだけだからと。

理屈で人は動きません。腹落ちして初めて動くんです。上司や幹部は自分で現場に行つて時間をかけて話してね、とお願いしています。自分も各拠点に行つてスモールミーティングするということが続いています。これから業績がどうなるか、ここ一年くらいが勝負かなと思つています。

~~~~~

講演の最後には、事前に集まつた質問にお答え頂く質疑応答の時間がありました。

★「社名に紡績の『紡』の字を残している理由は？」

社名はローマ字なんです。BOが『紡』ということ日は日本人以外知りません。このロゴがブレーキ製品に付いていてプ



東京支部総会



東京陵水107号

話した記事もご覧頂けます。

オンライン中継の準備に際しては外部委託することなく、大

ランドができていますのでこのまま残しています。

★「業態転換を計るうえで、社内でのように合意形成しましたか？」

トップダウンです。二〇〇六年の強烈な危機感で、二〇〇八年に目標を作つて短い期間で実行していかなければならないという中でどこに投資、M&Aを行つていくか会社の戦略をきちんと説明して、トップダウンで実行しました。

★「企業経営をするうえで最も大切なものは？」

会社は「人」なんです。ヒト・モノ・カネとありますが、モノとかカネは人に使われて初めて価値を産む。だから人が一番大事です。その人を甘やかしてはいけません、馴れ合いもダメです。実力主義と教育を重視します。年功的なものは排してできそうな人はどんどんひっぱりあげて昇格する・降格する、昇任する・降任する。結果が出れば上がる・出なければ下がる

ということでもモチベーションが頑張ってもらえればと考えています。

★「経営者の観点から会計の重要性は？」

CFOは経営の司令塔の役割を果たさないといけない時代になっています。経営戦略を全部分かつたうえで資金配分を考えていくことが仕事なんです。投資家は数字のことも戦略的なことも聞いてこられます。CFOも同席しないとCEOだけでは答えられない質問が多く来ますので、そこで気付きがあると思います。そういった幅広い知識を得ないといけないということを知るきっかけとしてぜひミーティングに参加いただくといいのではないかと思います。

~~~~~

講演の様子は陵水会東京支部のホームページ内「令和3年度東京支部総会」でご覧頂けます。

また、東京陵水第一〇七号(二〇二〇年発行)の「こんにち」では村上氏に学生時代やご自身のこれまでのキャリアについてお

令和3年度 支部総会を振り返って

当番幹事

水上 康弘(大32回)



昨年七月三日(土)、二年ぶりに支部総会が上野精養軒で開催され、その模様はズームによりオンライン中継されました。会場にご参加の皆様、オンライン中継を視聴いただいた皆様、支部役員方ほか準備にご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。

最後に、当番幹事を二年間務めさせていただきました間、支部役員方、先輩方には度々ご指導、激励をいただき厚く御礼申し上げます。特に、大31回の先輩にはきちんと整理された引継ぎ資料をいただき、準備を進める中で繰り返し見直して参考にさせていただきました。次の当番幹事となる大33回の皆様にもできる限りの引継ぎを行い、支部の良き伝統を承継していきたいと思ひます。

同期一同、至らない点も多かつたと存じますが、得難い経験をさせていただきました。これからも陵水会活動を応援して参ります。有難うございました。

東京支部総会に

オンラインで参加して

田川 行雄（大9回）

七月三日開催された令和三年

度の支部総会にオンラインで参加しました。総会の始まる前の映像で、懐かしい母校の風景や卒業生に対する先生方の活動など大変興味深い思いでした。

支部ホームページでご覧になった方も多いと思いますが、支部総会はいつもの上野精養軒で、いつものような次第で能島支部長の挨拶の後、中野経済学部長、山田陵水会理事長の挨拶が行われ、山本議長のもと各議題が滞りなく議決されました。

その後、新役員の紹介がありその抱負を聞いて、今年度は厳しい環境のなかで現役員と力を

合わせつつかりと東京支部を運営していただけると感じました。

第二部では日清紡ホールディングス株式会社の村上雅洋社長の講演があり「東京陵水」107号の「こんにちは」のゲストとして登壇していただき、私がインタビュを担当したこともあって大変興味深く聞きました。

そのとき以上に今回は資料も用意していただき、村上社長の経営の本質を追究し実行される経営姿勢に改めて感銘を受けた次第です。

最後に当番幹事のご挨拶がありました。大33回の当番幹事の皆様のご活躍を期待したいと思います。

令和四年度支部総会について

当番幹事 西野 忠 宏（大33）

○開催概要

・日時…令和四年七月二日（土）
午後二時開始（予定）

・会場…上野精養軒

・来賓並びに講演…滋賀大学データサイエンス学部長 竹村 彰通氏＋ゲスト

・演目「経済・社会へのデータサイエンスの必要性と滋賀大学の貢献（仮）」

○総会準備について

令和四年度の総会準備については、コロナ感染症の影響があり得る前提で準備を始めており

ます。今年度と同様に集合形式に加えてズーム中継によるご参加を基軸に検討中です。

幅広い年齢層の方々の交流の場となるよう、支部役員の皆様等のアドバイスを伺いつつ準備を進めていきたいと考えております。

講演につきましては、竹村データサイエンス学部長に加えて（提携企業等）ゲストを予定しております。

「データサイエンスとは、社会に溢れているデータから（価値）を引き出す学問です。ICT（情報通信技術）の進化した現代では、あらゆるビジネスや医療、教育、行政等においても、高度なデータ処理能力・データ分析が必要となっています（滋賀大学HPより）。」将に現代求められている領域でもあり、今後、益々の発展が期待出来ます。

幹事年次（大33）を中心に前後一年次（大32回と34回）のサポート幹事の皆様と連携の下で準備を進めています。

また、彦根高商開校一〇〇周年記念事業を盛り上げるイベントも兼ね、若手や女性会員の皆様を含め多様性のある支部総会を目指しております。皆様のご参加の程、宜しくお願い致します。

令和四年度東京支部役員紹介

（新）東京支部100周年記念

事業推進委員長

脇阪 守（わきさか まもる）

経済学部21回卒・美崎ゼミ

扇舞剣舞吟詠部

滋賀県・虎姫高校卒業



一九七三年大学卒業後、長年証券業務に携わりました。

二〇〇九年に東京支部21回同期20名が再会したところから陵水会東京支部とのご縁が深くなり早くも十二年が経ちました。振り返れば陵水会の諸先輩や同期・後輩の皆様との交流は年々密度を増し、素晴らしく楽しいものとなってきたと実感しています。

東京支部の副幹事長の役目はこの七月、服部さん北尾さんに引き継いで戴きましたが、このたびは陵水会が二〇二三年に一〇〇周年を迎えることから、東京支部二千名の皆様とともに一〇〇年の重みを噛み締め、次の一〇〇年に想いを馳せて意義深い

い一〇〇周年を迎えられるよう委員長の役目を微力ながら務めさせて戴きます。

是非とも皆様の積極的なご協力をお願い致します。

（新）東京支部副幹事長

服部 進（はっとりすすむ）

経済学部37回卒・有馬ゼミ

バドミントン部

愛知県・知多高校卒業



一九八九年JT（日本たばこ産業株）入社。その後、数社転職ののち、大塚製薬株にてSOYJOYの新発売時プロダクトマネージャーを務める。

二〇〇七年ハートツリー株式会社を立ち上げた。「日本の文化を次世代に」をコンセプトに、主に「森の保全」「和楽器」のカテゴリーでプロデュース活動を展開する。和楽器ユニットAUNJクラシック・オーケストラではモンサンミッシェルを始め世界遺産10箇所以上、世界25カ国での単独公演を成功させる。隈健吾氏、北野武氏らに出演いただいたドキュメンタリー映

画「うみやまあひだ〜伊勢神宮の森から響くメッセージ」をプロデュースし、マドリッド国際映画祭で最優秀外国語作品賞を受賞した。

(新) 東京支部副幹事長

北尾 聡子 (きたお さとこ)

経済学部45回卒・吉田修ゼミ

ESS部

兵庫県・京都女子高校卒業



副幹事長という大任を拝命しました。支部総会をはじめ様々な陵水会の活動により多くの女性にご参加いただき、陵水会の更なる活性化に寄与できるよう努めたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

東京支部副幹事長

田村 寿夫 (たむらとしお)

経済学部12回卒・西藤ゼミ

ハンドボール部

山口県・岩国高校卒業



一九九七年青山監査法人(現PWCあらた有限責任監査法人)入社。監査部にて十二年企業の会計監査に従事した後、財務報告アドバイザー部に異動、現在に至る。企業のIFRS導入支援やSECへのF4登録支援業務に従事、コーポレートガバナンス・コード対応支援業務やセミナー講師、執筆などを行っています。

平成十五年から十八年間、守谷社長の縁で東京支部の仕事に携わってきました。臺も立ち、消費期限も過ぎましたが、火曜・金曜の十時半から十五時まで支部事務所にいます。

総会も開催できない状況下、インターネットを利用して会合を開き、必要な活動は維持されています。役員改選の度に新しく参加される方々をみるにつけ東京支部の一層の発展を確信しています。写真は九月末に証明書用に近くで撮ったもので一ヶ月前の更新免許証と同じでした。

2児の母(大学生の息子と高校生(の娘)であり、週末は英会話学校や娘とピアノレッスン、三年前に始めたアコースティックギターの練習を楽しんでいます。このたびは、陵水会東京支部

東京支部副幹事長

上林 好一 (かんばやしよしかず)

経済学部26回卒・吉田貞夫ゼミ

ESS部

滋賀県・八幡高校卒業



日本勧業角丸証券(現みずほ証券)に入社後、ロンドン、シンガポール、ジュネーブにて、マーチャントバンキング業務、プライベートバンキング業務等に従事した(現地法人副社長等)。

元勸業総合研究所証券調査部長を経て、「ベスト・ソリューション株式会社」設立後、経営コンサルティング、M&Aビジネス等を幅広く営む。

著書に『8万円パソコンで始めるインターネット株入門』(アスキー出版、共著)、『証券仲介業実務講座』(シグマベイスキャピタル株式会社)等がある。

(一社) おいしさの科学研究研究所特別顧問。(一社) 東京滋賀県人会常務理事。

南カリフォルニア大学(USC)、経営大学院修士課程修了(MBA)。

こんにちは

服部

進氏 (大37回)

(はつとり すすむ)

ハートツリー株式会社

代表取締役

6回の転職。経歴は営業、商品企画、マーケティングさらには映画製作。どんなきつかけでこんなにもいろいろなお仕事を

されることになったのか、今回は37回卒の服部進さんにお話を伺いました。

■学生時代

—どんな学生生活でしたか?

服部 すごくスタンダードな学生生活だと思いますが、基本的にはバドミントン部の部活とアルバイトがメインです。部活中心の生活でしたね。学科は経済学科。ゼミは有馬ゼミで国際金融論でした。

—バドミントンはずっとやられていたのですか?

服部 高校時代3年間やっていて、大学でもバドミントンを続けようと思っていました。そして滋賀大の毎年恒例だった勧誘も受け、入部しました。4回生の春の大会は関西リーグ3部2位という成績で、同じ学年でみんなライバル意識があつてがん

ばっていましたね。本当に部活一色でした。

■就職

—就職活動はどうでした?

服部 4回生の5月くらいから活動をしていました。バブル期で売り手市場でしたね。当時リクルートの分厚い雑誌が送られてきてハガキをひたすら書くという活動でした。

人と話すことが好きということもあり、流通系を受けていたのですが、たまたまJT(日本たばこ産業株式会社)で働いている先輩から連絡を頂いたんです。その頃のJTは専売公社から民間になってすぐで、新規事業をやるうとしていました。それがおもしろそうだなと思って面接を受けて内定を頂きました。僕、全くたばこ吸わないので、入社してからは大変でしたけど(笑)。



—JTではどんなお仕事を担当されていたのですか?

服部 風邪薬とか胃腸薬とか健康ドリンクを販売している医療品系の子会社で神戸の営業を担当していました。6年くらい営業をした後に、商品企画をする

ことになって東京に転勤になり、医療品系の新規事業の商品開発をやっていました。薬用ニキビシートという商品があるのですが、おかげさまで売れていろいろなメディア等に取り上げられたことがマーケティングをやり始めた時の一番の成功例ですね。

その後飲料事業部に異動になってブランドマネージャーとして一年半くらい勤務しました。そこでいろいろな出会いがあったのでJTを辞めることに。

僕はここから真つ当なサラリーマン人生から足を踏み外すんですよ。

■6回の転職

いくつものお仕事をしてこられたと思うのですが、違う仕事をしてみようと思うきっかけは何だったのですか？

服部 僕は今まで会社を立ち上げるまで6回職を変えているのですが全部「縁」なんです。お話を聞いて職が変わっているの自分から動いて、ということはありませんね。

—どういった「縁」でこれまで転職されてきたのですか？

服部 JTを辞めるきっかけになったのはJTでマーケティングを担当している人にな

出会った中で、スポーツ業界の関係者と出会ったことです。それをきっかけにスポーツツマネージメントつまりエージェンツの仕事をしました。

ただスポーツの世界はそんなに甘くないので他の仕事も兼業していました。実は当時もう一社お話があった、「ビッグデータを分析してマーケティング活用できるデータを作る」という会社の立ち上げの話がありましてそこに参加してほしいと言われていました。それで兼業での立ち上げも携わらせていただきました。

その後、インターネットプロモーションの会社で働き、大塚製薬株式会社からブランドマネージャーやらないかというお話があつて採用頂きました。「SOYJOY」の立ち上げの時のブランドマネージャーです。立ち上げのマーケティングの責任者ですね。セミナーでお話しをしたり、新聞やTVなどにもいろいろ取り上げて頂きました。

それがサラリーマンとしてのキャリアの最後です。マーケティング専門家としてのサラリーマンは終えたという感じです。

■「マーケティング」という仕事—お仕事を変わられてもずっと

東京陵水アーカイブ

「東京陵水」創刊号

「東京陵水」は昭和三七七年十二月二四日付にて創刊され、以来五九年余を経て令和四年一〇九号に至る。

創刊時の主な支部体制及び「東京陵水」の揮毫は誰の手になるものか、創刊号の一端と共にご紹介いたします。

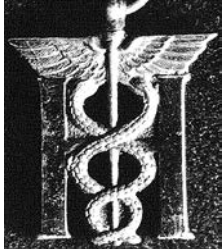
【創刊時の支部体制】

- ・支部長 黛 多慶男(第七代)
- ・幹事長 高安 良雄
- ・揮毫も高安幹事長

(高安幹事長は第十一代支部長へ)

・編集長 木村 信一
創刊号の最初の囲み文は次の通りです。

旧彦根高商の校章は「マーキート」を以て囲んだ意匠であった。この「H」は彦根の頭文字であるが、それに「4」つまり「ヘッド、ハンド、ハート、ヘルス」を表したものである。



彦根高商校章

また、「東京陵水」が創刊された当時の世相は次のようでした。
・第二次池田勇人(自民党)内閣
・高度成長政策により日本経済の急速な発展が進む
・東京都の常住人口が一千万人を突破(世界初の二千万都市)
・ファイティング原田、ボクシング世界フライ級チャンピオン

東京陵水

発行所 東京都中央区 14 区本町 1-14-14
東京陵水会館 6221
電話 03-5643
責任者 高安 良雄

陵水を日本経済の柱に

声価上げる伝統の4Hイズム

会員も七百余名
今般の世に於ける「東京陵水」の地位は、その名の通り「水」の如きものである。水は生命の源であり、経済の基盤である。本誌は、この「水」の精神を継承し、社会の発展に貢献することを目的として創刊された。創刊号の発行は、我々の使命を遂げる第一歩である。本誌を通じて、我々の活動の軌跡を伝え、社会と連携を深めようとする。本誌の発行は、我々の活動の軌跡を伝え、社会と連携を深めようとする。本誌の発行は、我々の活動の軌跡を伝え、社会と連携を深めようとする。



東京陵水アーカイブ「東京陵水」創刊号

マーケティングに携われてきたのですね。各会社で具体的にどのようなマーケティング業務をされてきたのですか？

服部 マーケティングにはたくさん種類があります。一番花形というか大事なものが、商品を企画して世に出すこと。商品企画と呼ばれる仕事ですが、その周りに広告、宣伝を担う部署があったりプロモーションを行う部署があったりイベントを実施する部署があったり。あとはマーケティングリサーチですね。

JTではブランドマネージャーでしたので自分が商品を企画して世に出すにはどうしたらいいかを考えて広告の専門家、リサーチの専門家、プロモーションの専門家に助けて頂くという役割でしたね。

ビッグデータの会社の頃はそのリサーチを助ける仕事ですね。誰が買っていてどんなふうについて利用しているのかを知りたい訳じゃないですか。当然みんなにヒアリングはできない。そうするとリサーチデータをブランドマネージャーが発注します。だからそのビッグデータの会社には、ブランドマネージャーが欲しいんだ、どうやったら

使えるか設計してくれと声をかけてもらったのです。僕としてはこの会社でもブランドマネージャーと同じことをしていたつもりです。

その後はインターネットマーケティングを学んで、そこまでの全ての出会いとか知見を活用してSOYJOYのマーケティングを行ったということですが、営業も経験して、商品をゼロから作らせてもらって、いわゆるマーケティングリサーチの専門の部署、広告宣伝の部署と、全部の部署に配属されたのですごくラッキーでしたね。

マーケティングについては就職してから勉強したのですか？
服部 そうです。学生時代全然勉強していなかったので(苦笑)。

転職になったのはJTでマーケティング担当することになった時に勧められたセミナーでした。僕の師匠でもある梅澤伸嘉先生のセミナーでこれはすごいなと。それからマーケティングというものを勉強し始めて先生の本はもちろん、マーケティングの本はほぼ全部読みましたが、梅澤先生の本が一番分かりやすい。

面白いのが、各企業に梅澤先生

生の弟子がたくさんいるんですよ。その弟子たちで仲良くなるんですね。今でも仲がいいのですが当時は彼らと毎晩のように飲んでいました。そういう時にマーケティング談義になるんです。カテゴリーの違う現役のマーケティングと日々意見を戦わせたのが今に至ります。それが僕にとって一番の勉強だったんです。

—人との関係から吸収してきたんですね。

服部 人のみですね。基本的に人と話して覚えていかないと覚えられないんで。

■会社を立ち上げる

—全然違うお仕事をされてきたのかと思うていたのですが、出会った人やマーケティングという軸で全部繋がってきいてますね。

服部 そうです。全部繋がっていきます。当時の流れは今でも繋がっているし、僕の志向とかこの会社を立ち上げるきっかけとか、どんなことをやりたいのかとか、ほぼその流れなんです。

JTから大塚製薬までの流れの中で、必然的に次こういうことやってみようかなと考えた時期が40歳です。人生も後半は恩返ししないといけないし、今まで

インプットしてきたからアウトプットしようという考えに行きました。



—「アウトプット」の方法として、会社立ち上げを選択された決め手は何でしたか？

服部 切りがついたなというものと、背中を押すものの二つのポイントがありました。

いわゆるサラリーマンとしては、おかげさまでSOYJOYが評価されてマーケティングとして面白いかなと思ったんですね。サラリーマンとして実績残せたなど。これは「切りがついた」というポイントです。

もう一つは「背中を押してくれた」ポイント。当時クールビズ、植林などそういうことが少しずつ日本で言われ始めていました。そんな頃に、環境省と関わる仕事をしていた僕の友達が「世の中、植林とかエコとか言

われてる。だけどそういうことに取り組もうとしている人たちにお金が回っていない」と言っていたのです。

「あなたはマーケティングが専門でしょ。マーケティングでお金を回す仕事だよ。エコとか植林とか森を守るという業界にお金を回す仕組みが作れるのかな」と。

確かにそうだなと思いました。それで少し調べてみたら森が大変な状況だということも分かったもので、僕の力が役に立てるならやってみようかなと考えたのです。これが「背中を押してくれた」出来事でしたね。

—会社立ち上げ準備から、立ち上げ直後はどうでしたか？

服部 会社の立ち上げはノリと勢いです。会社の立ち上げ方は調べれば分かるのであとは食べていけるかどうか。家族もいまずので、家に入れる給料下げないから好きにさせてくれとお願いしました。

立ち上げてから1年くらいは全然収入が無かったのですが、マーケティングのコンサルティンクの仕事も頂いていました。主ではないのですが食べていくためにはやらなければいけないことで。そうやって食いつなぎ

つつほんとにやりたいことを
徐々にやってくという感じでし
たね。

―改めて事業内容を教えて頂
けますか？

服部 すごく分かりにくいとよ
く言われます（苦笑）。

ただ目的は一つです。日本文
化のいいところ学ぶべきところ
を次の世代に伝えていくための
仕事をしていきたいと思ってい
ます。それをマーケティングと
いうスキルを使ってやるという
ことです。

日本文化もいろいろありま
す。その中で僕が選んだのは森。
日本人はほぼ森から文化を育て
てきています。いろんなことを
森から頂いてきているのです。
それは国土の7割が森という特
殊性もありますね。その森がも
のすごく荒廃してる。だから、
森をどう守っていくか、それが
事業の1つですね。

もう1つは和楽器です。太鼓
とか三味線とか尺八とか、千年
くらい続いている和の音をだれ
も聴いていない状態の中でどう
やって聴いてもらえるようにで
きるか。この2つを主に仕事に
しています。

―和楽器はどのようなきつけ
があったのですか？



AUN J クラシック・コンサート【アンコールワット】

服部 初め和楽器やるつもりは
全くなかったです。会社立ち上
げるときに和楽器にここまでお
金も自分の労力も使うことにな
ると思いきなかつたのです。
が、ある出会いがありました。
現在、AUN J クラシック・
オーケストラという和楽器演奏
ユニットをプロデュースしてい
ますが、リーダーが井上良平と
いう和太鼓奏者です。
彼は鬼太鼓座（おんでこざ）
という日本の和太鼓を世界に有
名にしたグループに入ってい
て、彼とたまたま知り合いまし
た。そして彼から和楽器の現状
を聞いたのです。
何かを次の世代に繋げていく

には、マーケティング的に言う
とブランド化するということが
必要です。そのブランド化で一
番大事なことは感動共有。感動
が共有されている状況をブラン
ド化されていると言います。
じゃあ感動共有に一番近いも
のは何かと言うと、音楽とスポ
ーツなんです。音楽とスポーツ
は目の前で感動するから。和楽
器という音楽を使って感動共有
ができればいろんな方面に役立
つと思います。それで、彼の
話を聞いてプロデュースを始め
たのです。

最初。それを、当時日テレさん
がドキュメンタリーにしようと
言ってくれて2時間特番になり
ました。
1つ思い出があつて、スポン
サーの広報室の室長の方が実は
滋賀大の後輩でした。プロジェ
クトが動き出してしばらくして
からだだったのですが、たまたま
学生時代の話になったら、えっ
彦根？と。僕よりも3つ年下で
当然僕が先輩なんでその瞬間立
場が逆転するっていうことが発
生しましたね（笑）。

■森を守る活動

―今現在どんなお仕事に取り
組まれていますか？

服部 次の世代にどんなメッセ
ージを伝えるかという事業で、
全国の小学校保育園に行つて和
楽器の演奏をして桜の木を植え
るというプロジェクトを大和ハ
ウス工業（株）さん、出光興産（株）さ
んと一緒に取り組んでいます。
今はコロナ禍で動けないので我
慢ですが。

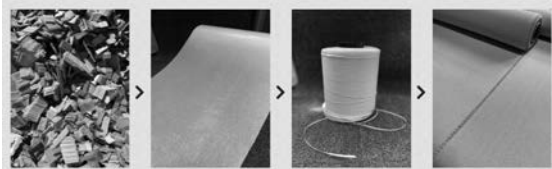
そんな中でも今やろうとして
いることが1つあつて、森を守
る活動をより活発化させようと
思っています。

森は、植える・育てる・切る・
使うという循環をしないと活性
化しません。重要なのは、切る・

TOKYO WOOD BAG PROJECT

布になるまでの流れ

樹原の木を使用して作った糸を使用した、オリジナル帆布生地。
自然素材でできた、軽くてさらりとした触り心地です。



使う。森は切ったらダメと言わ
れるのですが、逆に切らなけれ
ばいけないんです。そして切つ
た木を売らなければいけないせ
ん。売ること森にお金が回る
のです。畑もキャベツをずっと
植えっぱなしではダメですよ
ね。畑では1年サイクルで収穫
していますが、森はそれを一〇
〇年サイクルでやっているだけ
なんです。
その木をどう売るかですが、
僕は木をそのまま売るのはな
くて加工して売る、布にしよう
と思ってるんです。布にする技
術があつてそれは僕らもすでに
使っていて会社のホームページ
にも掲載しています。木糸と言

うのですが、その布にする取り組みを広げてみようと思っております。

最終的には森を育みたいんです。その手段として布を作るという方法を取っています。当然

森の仕事をされている方とも協力しないといけないし、生産ラインの協力体制も必要ですし、流通もどこに買ってもらうかを考えなければいけません。それを全部ブランドマネージャーとしてブランディングしていきます。

―「どう売るか」は布以外にも手段はあるのですか？

服部 一通りやってきました。木のまま使うものだと、木なのに折れる折り紙とか、子供用のおもちゃを作ってみました、紙もありましたが、鳴かず飛ばずの部分もありました。それで何か他にないかなと考えたところで布になったという経緯ですね。

ちなみに木のまま売るというもので一番借金背負ったのは割箸です。採算が合うように割箸の袋に広告を入れていたのですが、3年やりましたがなかなか広告が入らなくて。それでだいぶ借金背負って返すのが大変でした。割箸の失敗があつて今があるという感じですね。次は布

にしよう。

■映画「うみやまあひだ」

―映画を作るといふ、また意外な経歴でどうして？と感じているのですがどのような経緯だったのですか？

服部 森のことで知り合った投資家の方について、「ところで伊勢神宮知ってますか？実は伊勢神宮の式年遷宮のことあまり知られていないんだよね」と言われたのです。伊勢神宮では20年に一度社殿を造り替えるということが約一三〇〇年間続いている、毎朝、神様に食べ物をお届ける儀式が続けられているんです。

投資家の方が、どうやったら

それが伝えられるかなとおっしゃっていたので映画でどうですか？と提案しました。

映画はプロモーションの手段として最高なんです。例えば、TVCMに費用を1億円かけたとしてもたぶん皆さんが見たかな？くらいで終わってしまいませんか？でも1億円あればかなりいい映画が作れます。ヒットすればお金が返ってきます。しかも話題になればプロモーションになる。プロモーション手段として映画ってすごくいいんです。

それで作ることにしたので僕が僕は映画の専門家ではないので友達に連絡して、ダブルプロデューサーとして取り組みました。監督は伊勢神宮の公式写真家の宮澤正明さんにオフアールしました。なので、映画は僕が言い出しつぺですね。

僕は元々問題意識として、伊勢神宮の森をベースに日本文化を伝えたいと考えていたので映画を作ることができて良かったんです。伊勢神宮も許可してくださって、12人のインタビュースも隈研吾さん、北野武さんにも受けて頂けてありがたいことにこんなにうまく映画が作れることなんてないですよ。―映画製作は今までやったこと

がないことですよ。それをやってみようと思えたのってすごいですね。

服部 専門家にいかに興味をもつて頂けるか。一番重要なのは、コンセプトとブランドのマネージメントをどうするか。商品を作る、CMを作るのと同じです。

それが映画だとちょっと専門的になるだけ。上映先を決めるのは大変でしたけどね。あとは海外に向けても発信したので、海外の映画祭にどんどん出していたのですがそれは初めての経験でした。でも僕にとって

は全然負担ではなかったです。―やったことないことに抵抗はなかったですか？

服部 誰かが知っているのだからいいんです。考え方はシンプルで、目標を指して行動することが一番重要で、目的のための手段は、この場合は映画であつたということです。助けてくれる、共感してくれる人が誰かいますよ。その「誰かいます」が陵水会になったら最高なんです。

■陵水会との繋がり

―陵水会に関わることになったきっかけはあつたんですか？

服部 参加し始めたのは5、6年前位からです。「うみやまあ

ひだ」の映画を作った頃ですね。突然後輩からFacebookで連絡もらって若手で何かしよう

と考えているのでぜひ来てくださって。後輩たちが陵水会のこと真剣に考えていたから自分がぼつとしていたら申し訳ないなと思い、それで若手のNext Houseの立ち上げに参加して100人くらい集めようよって提案しました。

―普段の生活でいろんな業界の人と知り合えるのってなかなかないから陵水会は貴重な集まりですよ。

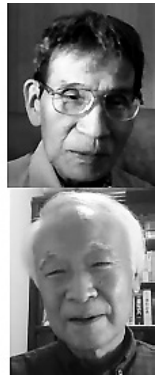
服部 それまで僕も陵水会を活用してなかったのですが、今は活用しないともつたいたいと思っています。

例えば後輩が映画作りたくなりました、と。陵水会に相談したら、じゃあ服部を紹介するよ。というふうに陵水会が機能するのがベストだと思えます。東京支部の役員にもなりましたので、陵水会を人材バンク・人材交流の場にしていきたいですね。Next Houseはそのために役立てれば。

たった一つだけの共通項「彦根で勉強した」だけで図々しくアポイントがとれる唯一の手段なんですよ。そうなればいいな



映画「うみやまあひだ」



彦根・思い出・街歩き 「ござれ食堂」

東京陵水・編集部

めに大事なものは先輩たちがある程度登録しないといけないですね。学生さんが登録する時に、先輩たちが見える状態になっていないといけないので東京支部の先輩たちにまずは一生懸命呼びかけます。重要なのは若手が話しやすい20〜40代の現役の方が表に立ちつつ、バックに大先輩たちがいるという状態が作れるとベストですね。それは地道にやるしかないです。決して無理強いせず、いいじゃんと思ってもらえるように。これはまさにマーケティングですね。

1ドルを低くすることができるとOB会が直面している若い卒業生がいけないという状態を無くせるかもしれません。日本で最初のちゃんとり組む大学にする、ということを陵水会でやってみたいですね。

「これから」
―服部さんの今後の目標をお聞かせください。
服部 『森を守る、森を育む』を目標に全てやっているの、目標を達成したいと思っています。

「何歳まで働きますか？」と伺うと「動けなくなるまでです」とおっしゃっていました。今後もしっとたくさん活躍をされていくのだと思います。

―陵水会のことを卒業生はもちろん学生の皆さんにも知ってもらえる機会がもつとあるといいですね。

―学生時代に陵水会が身近な存在だといですね。

服部 学生の間に陵水会を意識してもらえのが一番いいですね。学生も社会に出る時、将来不安じゃないですか。それを先輩が少しでも不安を解消してあげられたら僕らも意味があるし、みんないろんな経験をしていくからいろいろ話もしてあげられる訳です。

OBとの窓口を学生でも作ってもらって、いわゆるOB訪問よりもっとライトに陵水会が手伝うことができれば最高です。僕は頼られないとダメだと思います。学生が僕らを頼るハ

局の斜め前、広く空いた駐車場の奥に「ござれ」の看板を大きく貼りだした黒板張りの洒落た建物。

服部 まさしくマーケティングですね。何を誰にどう伝えるかということがマーケティングの手段的な要素です。せっかく陵水一〇〇周年もあるのだから、なん形で伝えていくのですが、卒業した方々には地道に伝えていく必要がありますね。

これから卒業していく学生さんにはハードル低く陵水会に登録できるベースを作る、これがまず1つだと思います。そのた

次世代と呼ばれる20代、10代の方々が希望をもった社会にしたいんです。すごく大きなことを言っていますが、僕らががんばればできるはずなんです。

服部さんがお話ししてくださった陵水会、Next Ryou sui ってどんな人たちがどんなことしてるのかなと少しでも興味を持たれた方は、陵水会や東京支部のウェブサイトをFacebookをぜひご覧ください。



陵水会東京支部



陵水会



板がひたすら懐かしかった。

彦根の学生生活は面白いぶんといつも良かった。「食い気をどこで満たしていたのか」「わが青春の彦根」（創立九十周年記念発行図書）に記録されている。

「昼食・夕食は魚仙で一五〇円位、ござれ食堂は二三〇円位でおかずを減らせばさらに安く賄えた」（昭和三十年前後）。「食事は食券購入の学食、飽きれば魚仙、ござれ、鳥卵、スター食堂」（昭和四十年前後）。「先輩にござれ食堂という一膳めし屋へ連れていかれて、なんでも好きなものを喰えといわれた」（昭和五十年前後）。ここで列挙された食事処で今日も経営を続けるのは「ござれ食堂」だけ。「鳥卵」も店



の名前として銀座通りにある。

店は六十年前の学生にとつては浦島太郎の感覚だ。店内も明るく広々と以前の倍近くはある。調理場のカウンターも広くて整理されている。便利だ。提供食品が美味そうに並んだウインドウケースに親しみを感じた。

思い出すのが、昭和三五年当時。目玉焼きが四二円、ごはん十円、みそ汁五円、魚の焼き物二十円、トマト皿五円。一食六十円から八十円の食費は貧乏学生にとつては手ごろな有り難い値段だった。好きなおかずが選べる楽しみがあった。

干し切り大根、きんぴら、切りトマト、鱈フライ、鮭の塩焼き、クジラのベーコン、細切れ豆腐等々。好みのおかずを盆にのせ、ご飯とみそ汁で盆を埋めて出来上がり。現在のお客さんはこの定食を六〇〇円程度で済ませているようだ。井物は当時の学生の目にはつかなかったが今では中華そば、カレーライス、親子丼、かつ丼とメニューも豊かになった。「魚仙」、「鳥卵」はやや高値。奨学金の入った日のとんかつがご馳走だった。

今の「ござれ食堂」の経営者は三代目吉田滋さん。相手をしていただいたのは茂さんの娘さ

んの山本（旧姓吉田）理恵さん。ご主人と父上とで賄を切り盛りしている。我々が昭和三十年代にお世話になったのは、理恵さんの祖父真造さん、活動的でよく声をかけてくれた姿を思い出した。



ところで、「ござれ桜」という彦根城の桜を知っている卒業生は多いだろうか。

「ござれ食堂」初代は吉田繁次郎氏（明治二十年～昭和三十二年）。理恵さんの曾祖父に当たる。食堂のほか寿司屋、旅館等を経営し、彦根町会議員を務めていた。当時、昭和八年に皇太子（現上皇）が誕生になってその御祝を兼ねて彦根城内とその周辺を桜で埋めようと繁次郎氏が呼びかけた。昭和九年二月にソメイヨシノを一〇〇〇本植樹したのが彦根城観光の目玉。「お城の桜」の始まりである。植樹には繁次郎氏が資金集めに苦勞し、自ら手を汚して作業をしてきたことで「ござれ桜」と呼ばれるようになった。大正時代以前にも数本の古い株が残っ

ているらしい。

今日ではその後には植えられた木もあり、繁次郎氏が植えた木も枯死したものもある。内濠沿いに母校に向けて桜が植えられたのもこの頃。「ござれ」は昭和初期の店の電話番号が「530」だったことによると言われる

「ござれ食堂」と滋賀大生との交流は平成時代に入ってから街のあちこちに出来たコンビニやスーパーの利用が増え、下宿生も利用者が少なくなった。また学食も以前に比べ充実してきたので食堂に顔を出す学生は減っているが、学園祭などには協賛広告を出して学生生活を援助している。「学生さんが栄養に偏らないように毎日の食事に利用してほしい」と理恵さんの弁。

昭和五十一年に彦根港湾に近い元町に「珈琲所ござれ」を開き、コーヒーの専門店としてまた滋賀大水泳部のたまり場になり、今でも同窓生が沢山訪ねてくる。駅にもう少し近ければと思った。

彦根駅から大学までのバスにたまたま間に合ったので乗車。車窓から街を伺っていたが、いずこの地方都市も似たり寄ったり。旧市街は人通りは少なく静かだった。

コロナ禍の中で経済学部及びデータサイエンス学部初の卒業生の就職状況

滋賀大学教育学生支援機構

特命教授 入江 直樹

二〇二一年三月に卒業した経済学部生及びデータサイエンス学部生の就職状況についてお伝えします。

【状況】

二〇二一年三月に卒業した学生は二〇一九年五月頃から就職活動を開始して夏、秋のインターシップを経験し、就職協定の取り決めである二〇二〇年三月からの説明会、六月からの選考を経て内定となった学生たちです。つまり就職活動を始めたときは例年通りのパターン、傾向で進んでおりましたが、コロナの影響で二〇二〇年初め位から「おや？」と思い始め、二月頃からはセミナーや説明会は中止、面接はオンラインで、と想像を超える事態となりました。オンライン面接では声が聞こえない、映像が写らない、途中で切断する、など学生側は大いに混乱し、また企業側は画面に映る学生に対してきまっただけで、気配を感じることなく内定

とするのか、一度も顔合わせすることなく内定としてよいのか等これまでに経験したことのない葛藤を抱えながら時間を過ごしました。大学は講義をどう進めるか、オンラインといっても様々な手段、方法がありそれをするのか、セキュリティは大丈夫なのか、まるで暗闇の中を手探りで進むようでした。私の講義はYouTubeに無人の教室で録画した画像をアップし

家公務員試験が実施されました。これにより地方公務員試験合格者が国家公務員試験にも合格し、地方公務員試験合格を辞退する者が多くみられ公務員応募者たちもこれまでにない混乱ぶりでした。学生たちは初めての試験で先輩たちから聞いていた状況と違う事態に混乱と戸惑いを隠せない毎日を過ごしておりました。

【経済学部生】

その都度課題を出して進めておりました。そんな中で学生は就職活動を進めました。

そうはいっても企業は採用活動を実施し、学生はそれに応えるように説明会、面接を重ねて参りました。旅行、ホテル、飲食、交通機関などは採用を中止

でも衝撃的な出来事がありました。これまで公務員試験のスタートは四月下旬に実施される国家公務員総合職（いわゆるキャリア職）筆記試験でその次に国家公務員一般職試験、地方公務員試験がA（都道府県庁及び政令指定都市）、B（市）、C（町村）日程と続いて実施されてい

製造業は例年通り、情報IT業は例年以上の採用計画を示しておりました。経済学部生は採用を抑制した業界への志望者が少ないことから直接影響を受けた学生は少数であったと思われる

ました。公務員志望の学生はこれらの試験を試験の練習とし、本番の地方公務員試験に備えておりました。しかし昨年はこの2つの国家公務員試験が順延され、最初に実施されたのが地方公務員試験A日程でその後

傾向として、いわゆる一般職（事務職）の求人が大幅に減少しておりました。これはAIを盛り込んだ業務システムを導入した企業が増えたことにより、定型的な仕事、単純作業を主とする仕事大幅に減ったことに

よると思われます。本学においてもこのような業務を志望する学生がおりましたので、その者たちにはIT業界に希望をシフトすることを薦めました。このような対応により例年に近い就職率を確保することができました。

【データサイエンス学部生】

最初の卒業生ということ以外から注目されておりました。結果として見込通りの結果となりました。

その見込とは①2割位の学生が進学する②残り8割の学生のうち専門職として働く者が3割③製造業などで技術系総合職として働く者が3割④残りは事務系総合職として働く、に分かれる、というものでした。ただいた求人多くは技術系総合職としての求人でした。しかしこれらの企業にもいくつかの傾向がありました。

①データサイエンスとはどのような学問で、どのような勉強をして、それを学んだものはどんなパフォーマンスを発揮できるかを思い描ける企業②DX領域での勉強をやっているの技術者ユニットに盛り込んで採用する企業③世の中がデータサイエンス、DXと騒いでいる

ので何をさせるかは決めていないが、取り敢えず採用しておこうと考える企業に分類されました。この①③には企業規模や業態には関係なく、直接会って話して初めてその企業の考え方が分かる、という状態でした。よって学生に紹介する企業は大学が共同研究契約を締結している企業や講義に協力していただいている企業を軸に学生に案内しました。

我々はこのデータサイエンス学部についても「文理融合」の

スタンスでスタートしましたが、企業側のスタンスはそうではなく完全に「理系」でした。採用担当者も人事部要員ではなく技術系専門の採用スタッフが窓口となり、最終選考で人事部にハンドリングされるところがほとんどでした。これについては我々大学が「文理融合」を継続的に説明していく必要があると実感しました。そんな中で学生はかなり当初のイメージに近い形で進路を決めていきました。

【最後に】

経済学部、データサイエンス学部共に大学や学生だけではこのような結果にはたどり着けないと思います。陵水会の皆様のご支援、ご指導があつての

ことと実感いたします。

特に社会的信用がないデータサイエンス学部生はデータサイエンス学部生である前に滋賀大生である、ということも多く企業に受け入れられました。

諸先輩方々のご苦労があつてこの結果であります。心より感謝申し上げます。引き続き就職へのご支援、並びに大学運営に関しましてこれまで以上のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

寄稿

■永遠の心のふる里・彦根

樋上 泰功（大5）

私の入学した昭和二十八年当時の彦根は、街も大学も、旧制彦根高商時代の面影を色濃く残している様に思えた。街は時が止まったかのように旧く静かで、ローカルの長閑な懐かしい香りを漂わせていた。

初めて学校の校門をくぐり、ロマンチックな木造の校舎を見た時、これから起きるであろう素晴らしいドラマに、胸踊る思いがした。

大学最初の寮生活は何もかも新鮮だった。偲聖寮のただ住ま

いは、旧制高商のバンカラそのものだった。それから続く一年間のバンカラ寮生活は寮友とふかい絆でつながり、生涯の友を生んだ。

私は「西寮下」に入寮した。二人一部屋であるが、夜になると、西寮下全員が、誰かの部屋に集まり談笑した。新聞紙の上に、駄菓子やバケツ一杯分投げ入れ、菓子コンパである。部活、授業の感想、お国自慢、高校の思い出、文学、経済、初恋と団論風発、はては誰かが唱えとなり、私は得意のシャンソンやポップスをよく歌ったものだ。そして最後は、街に繰り出し皆で肩を組み寮歌を唄いながら、城山を逍遙するのが定番だった。城山から月を眺めながら、浪漫溢れる彦根で今、青春を生きている幸せをしみじみ感じたものだった。

一年の寮生活を経て、全員下宿生活に移るのであるが、そこで出会う彦根の人々の人情が忘れられない。彦根の人々の滋賀大生に対する優しい思いは格別だった。これも彦根高商時代からの伝統なのだろう。親切にされると、自分も人に親切になれる。私は陵水会の皆さんが社会的に評判の良いのは、彦根時代に

に自ずから身についた暖かい人柄のせいだと思っている。

クラブ活動は、演劇部に入ったが、当時、滋賀大には女生徒は四人、一人は演劇部にいたが女優は県立女子短大から募集した。思いのほか沢山の応募があった。滋賀大生は人気があったのである。観客は学生のほか彦根市民で満席となり、熱狂的な拍手を頂いた。

寮友と一緒に、グリークラブでも歌った。これも女子短大と合同の練習である。なかにマドンナのようなとびっきりの美人がいた。みんなで噂をするのだが、誰も彼女に近づけなかった。バンカラ野郎も純情でシャイな奴が多かったのだ。

名コンダクター、神谷亨君の指揮により、混声合唱のレベルは高くいつも美しいハーモニーが校庭に流れていた。

教授は人間味のある先生が多かった。演劇部の顧問として、私たちを家に招き、いつも家族のように多忙のなか多くの学生の推薦状を書いてくださった芳谷先生。

そして面白い先生がいた。授業中に当時大ヒットした、ドリ

に毎回必ず一席エロ話をして、笑いをとる先生。人情の彦根とともに情感ゆたかな先生が忘れられない。アルバイトの楽しさも忘れられない。彦根は時代劇の映画のロケにびったりで滋賀大にエキストラの募集が来る。

彦根藩主、井伊直弼を描いた「花の生涯」で寮友とちょんまげをつけ、やりを持ってエキストラに参加した。

面白かったのは芸者のかごききのアルバイトだ。えびす講で袋町の芸者が着飾って、宝恵籠に乗り商店街を練り歩く。寮友十人が派手な法被とねじり鉢巻きで、五台の宝恵駕籠を担いだ。ゆく先々で祝い酒を振舞われる。千鳥足の駕籠かきになる。

こんなアルバイトも彦根ならではの、である。

「西寮下」の寮友とは「連中の会」として定期的に会っているが、寮友以外にも我々同期の集いは盛況である。東京五陵会には龍口秀夫君、大阪大五陵水会には、早瀬研君（初代）、足立和美君（現在）という名幹事がいて、それぞれ年二回彼らの

素晴らしい演出で忘れ難い至福のひとときを過ごしている。いつまでもこんなに仲の好い集団は、おそらく陵水以外にはない

のではと思う。

この歳になっても彦根を思う時いつも懐かしさで胸が一杯になる。あの石坂洋次郎の「青い山脈」のようにローカルで青春を謳歌した古き良き時代への郷愁なのだろうか。思い出はいつまでも色褪せないのだ。

彦根は私にとって掛け替えのない、永遠の心のふる里である。

戦後七十六年を振り返って
「私なりの中道思想」

刀祿館 信雄（大8）

私は小学校三年から高校卒業までの一〇年間伊勢松阪市で過ごした。父を台湾で戦禍の中に失い、母の実家に引き上げてき

まだ戦後の時代で社会は安定せず、大人たちの考えが混沌として思想的にも収まりが見えず、小学生でもあり政治的には影響を受けることはなかった。強いて言えば小学校五年生のことである。教職員組合の役員であった担任の先生がストライキの理解を求め全校生徒に話されたことがあった。

後に中学生時代、当時の三重一区の衆議院議員選挙の演説を、近くのお寺へ聴きに行った記憶がある。自民党の川崎秀二

氏の演説であった。

その後高校に入学したところ、私の村が松坂市に合併され、選挙区は三重二区になった。衆議院議長を務め温厚で見識ゆたかと言われた自民党の田村元さんがまだ当選前で、ポスターを見た記憶がある。

大学は寮費月額一〇〇円の学生寮に入り奨学金で暮らせる大学として滋賀大学を選び入学した。

入学した昭和三十一年の頃は就職難で、滋賀大学経済学部は唯一の就職率100%であると言われていた。偲聖寮に入ったが、大都市の国立大学学生寮と異なり、寮生たちの出身階層にあまり差がなく、主義、主張は

大学生の政治活動では全学連（全日本学生自治会総連合）委員長に北大の唐牛健太郎氏が就いていたことに見られるように、学生運動の地域差は大きかった。運動の一環として警職法反対のデモに駆り出され、彦根の街を滋賀大学自治会として行進した思い出がある。

昭和三十五年卒業と同時に損保会社に入社して名古屋の独身寮に入った。昭和三十八年十一月二十三日の朝五時ごろのニュ

ースでケネディ大統領の暗殺を

聞いた。「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、貴方が国のために何をなすことが出来るのかを問うて欲しい」の呼び掛けは同世代の若者の心を震わせた。昭和三十五年、その年はまた学生運動が激化して安保反対の国会議事堂闘争で樺美智子さんが亡くなった。全共闘（全学共闘会議）もこの闘争を原点に過激な学生運動を進める団体として、昭和四十年代の学生運動を引っ張っていたと思う。

入社二年目から企業内労働組合名古屋分会の組合役員になった。数年間名古屋分会委員として後、書記長まで勤めた。然し、専従の支部執行委員を打診されたが私は損保の仕事をする為に入社したと固辞した。分会役員、支部役員の諒承を得て、円満に組合役員を終えることが出来た。

各地を転勤して平成9年60歳で定年退職し、年金生活に入った。その後も社会生活を送る中で、権力を批判し良識とヒューマニズムを基調とした中道思想を大学卒業以来六十年余り堅持し高齢の今も健在である。

安定した政治こそ国民の幸福を左右するもので、その土台は

経済にあると思っている。

リタイア後、改めて国富論を読んで資本主義の「レッセフェール」の根幹を再考したり、最近では斎藤浩平氏の『人新生の「資本論」の利潤追求を幸福追求の主題にして、マルクスの思想に眠っていた幸福追求を掘り起こしたという考え方に共感している。

私はこれまで国政選挙も地方自治体のそれも投票を棄権した事は無い。「権利の上に眠ることはやがて失うことになる」と思っている。

最近読んだ山口周氏の「ビジネスの未来」の中に故マルティン・ルーサー・キングの良い言葉を見つけた。「差別する人よりも、反対であるのに声を発しない、善意の大衆にこそ問題がある」。

往古来今・不屈の青春

不滅の夢・ロマン

石橋 勲（大5回）

暗中模索

私は京都市内の小学校六年生の夏、終戦を迎えた。翌昭和二十一年、旧制京都府立一中（明治二年創立。日本最古の中学校）に入学した。当時の教科書は、

ガリ版刷りのザラバン紙を配布

された。自ら二枚に切り、こよりで製本したものを使用した。

戦後の混乱の中、学制改革が行われ、我々が最後の旧制中学入学生となった。中学三年の春、我々は一中の校舎を追われ、府立第一女学校（通称「府一」）の校舎で夫々別の学校（先生も別々）として、例えば、女子の府一が午前、男子の一中は午後の二部授業を余儀なくされた。

当時もつとも記憶に残っていることは、女学校ゆえに、男子用のトイレが職員用以外全くなかったので校舎の裏に大きなタールをいくつも地中に埋め、そこを用を足したことである。中学三年の秋、またまたの学制改革で、中学・高校は小学区制となり、再び転校を余儀なくされた。

我々は「学生難民」であり、食糧難（コメは配給制、ヤミ米が横行していた）の時代の子供として育った最後の年代であったのかもしれない。

越島南校

昭和二十八年、一年浪人後僞聖寮の西寮下に入寮した。西寮下の連中（京都、岐阜、愛知出身）は日夜一室に集まりお国自慢やそれぞれの生き方、考え方を語り合い、同じ釜の飯を食べ

同じ風呂に入る、という団体生

活。自ら考え、行動し、責任を持つという意識が培われたのも僞聖寮時代であり、まさに以後の人生に大きな影響を与えた。

部屋は一室二人で机はあったものの勉強したという記憶は全くない。因みに一回生で取得した単位は英語と体育のわずかに科目のみだった。だがそれに関して今も悔いはない。それこそが私の青春のコマであり人生の原点であったからである。

温故知新

五十歳を過ぎてから京都府立第一女学校、府立一中（昭和二十一年入学・同学年のみ）の第一回合同同窓会が開催された（日本全国他校との合同同窓会が開かれたケースはまずないであろう）。

出席者は約四百五十名。男女ほぼ同数。海外からも多数参加した。我々の共通認識は、希望の学校に合格したもの（当時の女学校、中学校は義務教育ではない）卒業することができなかったことに対する無念さと、青春時代を味わうことが不可能であったことに対する悔恨の情がそうさせたのであろう。なぜ知らない者同士が席を同じくすることができるのか。

彼女たちにとっては父や兄が

一中、われわれにとっては母や姉が府一という結びつきの多さが、安心感親近感そして短期間であっても同じ校舎で学んだという共通項を持っていたからだと思うれる。

最後に夫々の校歌を唄うのだが、府一の女性は誰一人歌詞をみることもなく歌うのだが、誰が指揮するでもなく、心をひとつに時代の波に流された青春を、心を込めたその歌声はまるで少女に帰ったように若々しく、それはまさしく天使の声のように聞こえ、名状しがたい一種異様な感動を覚え胸が熱くなる思いであった。

螢窓雪案

五十歳を超えた時、仕事一筋で定年を迎えることに忸怩たる思いを感じ始め、何かエポックを作りたいと思うようになってきた。その時たまたま、平成二年、日本初の「社会人大学院」が青山学院大に誕生したことを新聞の募集案内で知り、一念発起して大学院国際政治経済学研究科・国際ビジネスコースを受検し、一期生として入学することができた。院生は二十代後半から四十歳台前半が大半を占め、私は断トツの最年長であった。

おそらく全国の大学院生の中で

会社員と学生の二足の草鞋を履くことになるので人事担当役員に申し出ると、一言のもとに否定されると思ったが、意外にも即決で快諾してくれた。

（社章に因んで）と世間で言われ、社内では「数字が人格である」というカルチャーがあり、通学許可には意外感が強かった。しかしその会社のフトコロの深さが業界一の地位を保ち続け得た要因の一つであつたかもしれないと実感した。

修士論文は「地方銀行の経営戦略と債券運用についての一考

に一週間泊まり込み論文を書き上げた。使用した各地銀のデータは監督官庁に提出するものと全く同じものであり、未公表の超秘密のものであった。今にして思えばデータサイエンスの³はしり⁴であつたとも考えられる。データはその質、正確さ、量こそが命であることは明白である。

徒に馬齡を重ね米寿を迎えた。今後は脚下照顧、行雲流水、桃李成蹊を目指し老馬の智を生かし新しい何かに挑戦したい。チャレンジすることこそ青春。むかしも青春。これからも青春。ずっと青春。それらは心の有り様である。その原点である偲聖寮に感謝と万歳。刎頸の友には安心立命を。

寮に感謝と万歳。刎頸の友には
安心立命を。

◆◆◆コロナ禍の介護の現場から

脇
昌之
(大51)

有限会社ウエルフェアバンク

代表取締役

東京陵水の編集委員をしています。私は平成十八年に東京都大田区で介護事

私が経営に携わっているのは介護が必要な方が日中通うことができる通所介護事業（老人デイサービスセンター）と介護が必要な方へ介護の計画（ケアプラン）を立てる居宅介護支援事業所です。実際に私も居宅介護支援事業所で現役ケアマネージャーとしてケアプラン作成の業務にもあたっております。この2つのサービスでの視点を軸にお伝えしようと思います。

二〇二〇年一月頃から始まった新型コロナウイルスの影響は、かなり大きいものでした。短期間で感染症対策を行わなければならず、品薄の中でマスクや消毒液、フェイスシールド、使い捨てのガウン、仕切りなどを用意したり、業務フローを見直し、感染リスクを回避するためのマニュアルの作成などを大急ぎで行ったのを覚えています。

ご利用されているご本人やご家族への影響も多くありました。特に要介護度が軽度の方は感染への懸念から介護サービスの利用を控えたり、これまで行

また、継続して介護サービスを利用していても、通所先の事業所で感染者が発生することにより、次の日から休業のためサービスが利用できなくなることもあります。その際、ご利用者やご家族が突然必要な介護を受けられなくなったりケア

マネージャーなどが代替サービスの調整に追われるなど各方面への負担が大きくなりました。

一方で、私も所属している大田区の通所介護事業者連絡会などでは、サービス利用を控え、ご自宅で過ごされる方向けに、自宅でデイサービスでのサービスを訪問で受けられる取り組みなどが新しく生まれるなど、事業者間で連携した創意工夫もありました。

人と対面しないといけない仕事のため、いつ自分が感染してしまうか、また感染させてしまうのではないかと精神的負担が多くありました。特に訪問

また、これまで会場に人を集めて行っていた研修や会議、地域の活動が一旦中止になり、職員の研修や地域活動などの機会が減少しました。介護は行政や地域包括支援センターなどと連携し、事業所への研修や地域住民向けの介護予防などの取り組みも行っておりましたが、それが軒並み中止になりました。今はズームなどを活用し研修機会はまた増えてきています。

人材の採用でも、感染リスクが高い職種ということでこれまでも採用活動が大変だったのがさらに大変になった印象です。また、派遣の看護師を利用する際にも、ワクチン接種会場などの時給の高いところに看護師が集中してしまい、介護現場の派遣看護師がなかなか決まらない

こともありました。

○事業への影響

特に通所事業で影響が大きかったのが、介護サービスの利用控えと事業所内でコロナ感染者が発生した際の休業でした。コ

ロナ感染者が発生すると事業所を一旦閉めて、保健所や行政への連絡、消毒や濃厚接触者全員のPCR検査などを行わなければならず、売り上げが大きく落ち込むことになりました。雇用調整助成金など各種支援制度があったものの、もともと利益が出にくい介護事業に加え利用控えて稼働率が落ちていくところに併せてでしたので大きな痛手でした。

訪問事業でも従来の人手不足に加え、職員がコロナに罹患してしまうと二週間など長期で休ませなければならず、また濃厚接触者になっただけでもPCR検査で陰性が証明されるまでの数日は出勤できないため、サービスへの提供体制に困難が生じ、訪問先を限定しなければならぬ場合もありました。

売り上げの減少に伴い、コロナ融資の政策でキャッシュを積み増しながら現在も耐えている事業者も多くあると思います。また、助成金や給付金などを活

用して感染症対策へのコストの増加や休業等の売り上げ減少のリスクに対応しながら、なんとか乗り切っている事業所も多いと思います。

○最後に

今回文字数の影響もあり、深掘りするよりも大まかに私の感じた現状の一端を書きました。が、今回のコロナ禍は良い意味でも悪い意味でも事業者の「時」を数年速めた印象があります。もともと体力がなかったり、変化についていけない事業所はとたんに窮地になり、逆にうまく変化に対応し、これまでより速いスピードで事業の拡大やオンライン化などを進め、サービス提供の体制を改善した事業者もありました。まだまだ今後の状況は見えませんが、一事業者が感じた変化の一端を感じて頂けると幸いです。



へボゴルフアー談義

大学23回卒 中岡 浩三

東京陵水ゴルフコンペには第103回から参加し始めて5年になります。

毎回、長年幹事長をなさっている山本先輩の名司会進行・コンペの準備等々頭が下がります。私のゴルフは彦根での大学生時代、アルバイトをしていた「クラブ浜」のチーフがたまたまレフティだったので、打ちっぱなしの練習に連れて行ってもらったのが皮切りです。

その後、経営破綻したポテト銀行に就職し、一年先輩がまた偶然レフティで彼がロンドン支店に赴任するのに置き土産でもらった道具で28才の時に練習を始めコースデビューしました。

以来四〇年以上たまにクラブを握る程度ですから、腕前は上がりませんが健康維持と高校同期や大学同期の友人との楽しいゴルフをすることで余暇を過ごしている次第です。

二〇二一年十月二十一日から二十四日にかけて行われたZOZOチャンピオンシップはたまに運良く最終日の1デイチケットを大枚はたいて手に入れ、松山英樹の6番18番のイーグルをグリーンサイドで見ることが出来ました。プロと素人とは比べものになりませんがコリンモリカワ、リッキーファウラー、ザンダーシャウフェレ、金谷拓美のプレーにも圧倒されまし

た。天気も良く最高の一日でしたよ。



東京陵水ゴルフ会

(第120回～第123回)

第120回大会は昨年十二月十五日開催、第121回は四月二十日開催、第122回は六月二十二日開催、第123回は九月二十一日開催とコロナ渦中のなか奇跡的に予定どおり開催でき、総じて天候にも恵まれ平均18人参加で成功裏に終えることが出来ました。

(六月大会はワクチン接種の関連で参加できない方が数名発生)

若手・ベテランの諸氏がそれぞれ奮闘し、毎回優勝者が変わる白熱した戦いが展開されました。

第121回大会は大9回の田

川選手と西坂選手で優勝・準優勝を分け合い、大12回の守谷さんが竹森杯カップ取り戦を制するなど、ベテラン勢の活躍で表彰式は大いに盛り上がりしました。

大20回の上野選手が年間を通して好調を維持しベスグロ賞独占は見事の一言です。また、大26回の高見選手が8回出場で2回優勝するなど若手？の活躍も特筆される。

【各回の戦績・優勝者はじめ飛賞も含めた賞金獲得者名は下記の通りです】

第120回記念大会

成績(賞金獲得者)(卒年)

優勝…中村 勝(大25)66(28)

準優勝…蔵田昭憲(大17)68(29)

3位…上野恵三(大20)73(7)

4位…佐藤秀幸(大10)78(21)

5位…田口良三(大23)78(21)

10位…岡本和之(大17)81(17)

15位…西坂徹雄(大9)86(23)

BB賞…山本 保(大15)92(18)

ベスグロ…上野(大20)80

ドラコン…柴田(吉)・松井

ドラ短…中西・山本

ニアピン…川崎2・上野2・岡

本・柴田(吉)・高見

第121回大会

成績(賞金獲得者)(卒年)

ネットスコア(ハンディキャップ)

優勝…田川行雄(大9)70(21)

準優勝…西坂徹雄(大9)72(30)

3位…高見政史(大26)75(15)

4位…岡本和之(大17)76(20)

5位…日高信次(短9)78(16)

11位…中村 勝(大25)82(22)

15位…玉置辰司(大23)86(19)

BB賞…中岡浩三(大23)89(26)

ベスグロ…上野(大20)83

ドラコン…山本・高見

ドラ短…中西・玉置

ニアピン…柴田(吉)・上野・高見

第123回大会

成績(賞金獲得者)(卒年)

ネットスコア(ハンディキャップ)

優勝…高見政史(大26)70(13)

準優勝…上野恵三(大20)72(6)

3位…玉置辰司(大23)72(19)

4位…川崎憲夫(大17)73(11)

5位…蔵田昭憲(大17)75(31)

10位…西坂徹雄(大9)78(24)

13位…竹森二郎(大19)81(8)

BB賞…田口良三(大23)91(22)

ベスグロ…上野(大20)78

ドラコン…岡本・上野

ドラ短…守谷・山本

ニアピン…西坂・川崎・上野・玉置・青木(大45)

(大23回 田口良三記)

第122回大会、竹森杯取り

り・守谷選手

成績(賞金獲得者)(卒年)

ネットスコア(ハンディキャップ)

優勝…岡本和之(大17)71(20)

準優勝…守谷貞夫(大12)73(40)

3位…日高信次(短9)73(18)

4位…山本 保(大15)73(34)

5位…蔵田昭憲(大17)76(31)

10位…松井善嗣(大23)80(24)

12位…中岡浩三(大23)82(28)

BB賞…田川行雄(大9)85(14)

ベスグロ…上野(大20)84

ドラコン…田村・高見

ドラ短…佐藤・日高

ニアピン…岡本2・田口・松井

東京陵水会囲碁会便り

「東京陵水会囲碁大会の報告」

鈴木 克治(大14)

去る十一月二十日(土)、全国情報サービス産業厚生年金会館にて開催された。参加者七名。

成績

優勝 森本忠徳 五段(大9)

準優勝 神崎栄次 六段(大3)

第三位 聖成崇夫 八段(大17)

例年、囲碁大会は六月と十一月の第三土曜日に年二回開催し

ております。

しかしながら令和二年の六月、十一月及び令和三年の六月は新型コロナウイルス蔓延の影響で中止せざるをえませんでしたが、今後は新型コロナウイルス等の状況を見ながら、従来通り年二回開催する予定であります。

新しい参加者は大歓迎です。で左記までご連絡ください。

幹事 鈴木 克治

住所 〒277-0085

千葉県柏市中原一四二四

電話〇四七一一五七三七一

携帯〇九〇一五五三九一六八四八

詩吟の会

宮野 幸雄(大12回)

令和二年はコロナの影響で教室での稽古は全く出来ませんでした。が、前年から始めたオンライン(Zoom)教室が軌道に乗り、外出自粛が要請されている中で生活のリズムが確保出来ました。

また、詩吟を多くの方に親しんで戴こうと考え「千代田岳精会」ホームページの中に「範吟コーナー」を設け外部からのアクセスを歓迎しております。鈴木会長(大7回)の力強い吟詠

をお聴き下さい。

詩吟の魅力は前号で西川清悟(大18回)さんが述べておられることに尽きます。お暇な時、詩吟を聴きたい気持ちになった時、「ホームページ」を一度覗いてください。そこは、予想も出来ない夢の世界が広がっております。スマホを開いてアクセスするだけです。

滋賀大に在籍されて居た加藤勝康教授は良く言われていました。

「滋賀大生は真面目で、頭も良い、ただ、チャレンジ精神と好奇心がもつと欲しいなあ」と。

令和三年

陵水散歩会

林 史欣(大8)記

令和の時代に入って、二年目から新型コロナウイルスが蔓延、すっかり、旅や散歩の機運が衰えてしまった。令和三年春、緊急事態宣言の合間を縫って桜の花見を。そして十月に入って東京の感染者が一日五十人と蔓延下火になったところで一泊の旅・散歩を開催した。この開催で百十七回目となった。

●令和三年三月三十日(火)

「石神井川沿道・桜並木散策」



コース…王子駅→飛鳥山公園→音無親水公園→正受院→音無桜緑地→金剛寺→中央公園→寿徳寺→加賀公園→板橋→智清寺→東上線中板橋駅

時宜を得た道行となった。コースの初めから終着の私鉄駅まで途切れることなく満開の桜が頭上を覆った。石神井川が街中の川としては意外と溪谷が深く、それだけに情趣の尽きないものがあつた。

中央公園ではアメリカ占領時代の遺産的建物を見た。日頃賑わっている板橋宿はこの時期としては少ない人出。コロナ感染対策厳守のなか店に入っても、お酒を飲んでも、話してもまづい。ということで打ち上げ無し

●令和三年十月二十六日（火）
～二十七日（水）

「白馬東急ホテル（一泊二日）
と近隣散歩」

コース…一日目。新宿バスタから朝七時半過ぎに高速バスにより信州白馬町停留所に十二時半過ぎ着。白馬東急ホテルに到着後、白馬連山を遠望するため白馬大橋へ。雲が山のおもとからまで覆っているので松川の荒涼とした白色の石や岩に覆われた河原を見物。

二日目。重要伝統的建造物群保存地区「白馬青鬼地区」～白馬大出公園～JR白馬駅～東急ホテル～白馬オリンピックジャンプ競技場～東急ホテル～白馬町停留所～新宿バスタ二十時半着。

白馬までのバスの行程は諏訪湖までは好天の下、秋が熟した信州の山脈、頂上に雪を置いて美しかった。安曇野を通過するころには一面の曇り空。ホテルを囲む杜や林は紅葉が熟しきつていなかった。初秋の暖かさが秋のあゆみを遅らせている。青鬼部落へはタクシーで九十九折の山道をとどころで紅葉に迎えられながら着く。茅葺の屋根はトタン葺に代わったが、山里の趣は変わらない。棚田の上



から眺めた白馬の山並みが美しかった。山を下って水車小屋を中心に田圃と小川に囲まれた大出公園へ。ここでも雪のアルプスの眺めを堪能。白馬駅近くの蕎麦屋で信州そばを楽しむ。ホテルに戻ったら、オリンピックジャンプ台までホテルの好意で見物することができた。
※令和三年十一月までの参加者
富永義孝（大7）、小森清美（大8）林史欣（大8）、宮野幸雄（大12）天木國夫（大14）、羽瀨展世（大14）、吉田勇夫（大15）、渡辺雅利（大16）、能島伸夫（大22） 輩止泰子（特）

東京陵水 文芸

俳句・短歌・漢詩・絵

俳句

中川 郁三（大5）

花の宴やうやう一分雨やまず
雪見と花見は予定が難しい。
すでに準備は整っているが寒い
日が続き花はまだ一分咲き。冷
たい雨まで降っている。それで
も仲間との宴は楽しく賑やかに
終わった。

にいにい蟬心いつしか少年に
この蟬が鳴くと夏休み。風に
乗ってチーシーと鳴くが体も小
さく声も細いので気付かぬ人が
多い。小学生のころ近くのニセ
アカシアに声が聞こえると捕虫
網持って駆ける。今もこの蟬が
鳴くと少年期の情景が浮かび胸
がキュンとなるほど懐かしい。
ごきかぶり逃げよ隙間へその足で

最も嫌われている昆虫。出て

きょうものなら家中大騒ぎ。殺
虫剤を取りに走りスリッパで叩
く。人を刺すでもなくそれほど
悪いとも思えない。憐れでなら
ない。

振り向けば今日の落ち葉の早降れる
我が家と向かい家の桜が落ち
葉を降らす。かなりの量が偏西
風の影響か大方当方側に積も
る。私は掃くのが嫌いではない。
風の日掃き終えて振り向くとも
う舞い落ちていく。

鬼はざる 霧笛の近さ 寒の夜半
我が家は東京湾の最奥国道沿
いの段丘に位置する。繰り返す
埋め立てでもう海は全く見えな
い。冬の夜半稀にボーと野太い
音が聞こえる。長い間何の音か
といぶかっていたが船の霧笛が
風向きによって駆け上がってく
ることを最近知った。

俳句

能島 伸夫（大22）

新年

逆風にますます高し七連風
正月休みに孫と武蔵野中央公
園で風あげをしました。他の一
つの風より七連風が風を受けて
高く高く舞い上がっておりまし
た。

春

春空を撫でるがごとく太極拳

日課としている朝の散歩の時
に大泉中央公園でご夫婦と娘さ
んならしき三人がそろって太極拳
をされていました。あたたかな
春を感じました。

夏

朝焼けの中や生きとし生けるもの
東の空が燃えるような色に染
まっていました。何か荘厳さの
中に命のエネルギーが現れ出て
いるように思いました。

秋

渺渺と摩天楼上いわし雲
かれこれ四十年前ニューヨー
クへ初めて行ったとき、摩天楼
の上に果てしなく広がっていた
いわし雲の映像は、脳裏に焼き
付いており忘れられません。

冬

朗報を待つ親子をり日脚伸ぶ
中学受験の結果を待つ親子の
姿です。日差しの温かさ、確実
に春（受験合格）が近づいて日
脚が伸びている中で。

俳句

吉田 勇夫（大15）

春雷花吹雪を敷き清め
昨日から吹き積もった桜の花
びらを春雷が綺麗に路地に敷き
つめてくれました。

梅雨明けて亀が首出す 野川かな
梅雨が漸く明け、甲羅干しに
亀が野川から出てきました。
桂川 鮎釣り人の 三三五

今年も鮎釣りも解禁にな
り、山梨の桂川に出かけました。
川沿いを涼風受けて奥入瀬路
三十年振りに青森を訪れ奥入
瀬路を娘夫婦と探索しました。
子に餌の獲り方授け 玄鳥去
軒下で一所懸命子供に餌をあ
たえていた燕が、秋風が吹くと
子供と一緒に去り寂しい。

短歌

浦谷 政夫 (大7)

床の間にお鏡がざりいささかの
新年祝ふせてもの春
正月はまさに幸なり朝昼夜降る
雪見つつ酒を酌めるは
百葉の長と思ひて酒を酌むなん
の知識のなくてさもしき
火木土、日と薬を飲むごとく
酒飲む日をば決めてゐたるは
九十歳になれば毎夜飲まなか
娘にいへば笑ひてをりぬ
禁酒日も口実あれば飲まなか

けふ誕生日晴れてのいひ分け
先づビールひとはだ爛の酒汲み
てひとりだけなる夕餉みたさる

飲む酒も阪神勝てばなほうまし
テレビを前に手をたたきをり
このごろは泣き酒けんか酒見ず
なりて世の穏やかなるを身近に
ぞ知る
庭に生ふ白梅すでに咲き満てり
蜂のきたりてかそけき音す

信楽の火鉢の中にめだかなる子
を生めりとぞ娘の伝へくる

このころはめだかの飼育のはや
るとふ主婦なるひとの子離れし
たりて

大津にて下宿をなせり高校の
一年次なる青き時代に

下駄履きて逢坂山を越えにけり
大津に住まはばみやこに近く

芝田君若くして逝く 下駄履き
て逢坂山を共に越ゆるに

車などまづは通らぬ逢坂を自転
車漕ぎて三度越ゆるは

自転車に乗りて京都にあそびた
り チェーンはむき出しパンク
をおそるる

逢坂を京津電車と競ひたり
下り坂にはわれら勝ちたり
坂登るつらさの覚えなきにして
ただに疾駆の楽しかりけり
峠より近江を望めばはつかにも
みづみあをくしづまりてぬぬ
短歌雑詠

林 史欣 (大8)

コロナ桐の蔓延ニュースの足元
で 小春日和の猫の居眠り

この世とは生き行くことに価値
ありと老友の声に衰えは無し

新聞から採る感染者の統計に上
限がなく「未読ろし」と

気になるなフアクターエックス
日本の島に潜めし不思議求めむ

「新しき日常」ほどに心なき不
安を あおる言葉ぞなし

生まれつき抗体ありと想うても

ワクチン接種に心躍る
令和三年の真上に轟く飛行音
ワクチン運びと苦情抑える

自分史の目次覗けば戦争と自然
災害そしてコロナ禍
訃報ありまず気になるは病因が
新型コロナでなければいいが
日々に減る感染者数嬉しくて
出てくる声に弾みが数多

信濃路を辿る山脈シンフォニー
静かに重くそして轟く

棚田に沿い古民家尋ねその果て
に のぞむ白馬は高くて淨き

清浄な水を流して水車小屋
稲刈り後の田圃の静寂

紅葉の広がる高き山のもと
鉄構造物はオブジェと輝く

信濃路の秋は彩ゆたかなり
冥していつつ景色を描く

漢詩

重陽前有感

重陽を前に感有り 木戸 彪 (大16)
窗前獨見菱荷黃
窓前 独り見る菱荷黄なるを

預略蛩聲似在郷
領略す蛩声の郷に在るに似たり
愈老愈思歸去路
愈老いて愈思ふ歸去の路
故園叢菊近重陽
故園の叢菊重陽近し

【字語説明】 ★重陽…重陽の節句 (旧暦九月九日・菊の節句・今年十月十四日) ★菱荷…ヒシとハス

★領略…悟る、了解する ★蛩声…コオロギの鳴く声 ★愈々…ますます 愈々になるほど (越々 越々と同じ) ★故園…ふるさと ★叢菊…群がって生えている菊

【詩解説】 日が傾くころ、部屋
の窓からただ独り池の菱と蓮の
葉が黄色く変わったのを、ぼん
やり見ている。
軒端で頻りに鳴くコオロギの声
は、昔郷里で聞いたあの声だ。
年をとればとるほど里心は募る
ばかり。
想えばふるさとのあの菊花も今

真つ盛りだろう。また重陽節がくる。

早朝散策

田川 行雄 (大9)

未明早曉海風涼 高閣層層凌碧蒼
散策沿途花滿棗 噴空金港是煌煌

【読下し文】

早朝の散策

未明の早曉海風涼しく

高閣層層として碧蒼を凌ぐ

散策の沿途花万棗

晴空の金港是れ煌煌たり

【背景】

横浜(漢名は金港)のみなと
みらい地区は次々と高層ビルが
建ち、わが住まいの近くの臨港
パークに接して最近、全面ガラ
ス張りの高層ホテルと新しい展
示ホール「パシフィコ横浜
・ノース」が完成し、両者の
間に大きな花壇を含む広い遊歩
道ができました。

これが小生の毎朝の散歩道と
なり、春にはいろいろなめづら
しい花が満開となり、朝の楽し
いひとときを提供してくれてお
ります。

この道を通って臨港パークに
赴き、多くの仲間たちと楽しく
ラジオ体操をしておりますが好

天の日はキラキラと輝く海と公
園の緑に見とれます。そんな朝
を詩にしてみました。

追憶亡兄 平起式(先)韻

亡兄を追憶す

家兄逝去歳除元旦受賀状詠懐
家兄歳除に逝去し元旦に賀状を
受け詠懐す

柴田 豊彦 (大16回)

家兄歳暮赴黄泉

家兄歳暮に黄泉に赴き

追念温容萬感牽

温容を追念して万感牽く

豈料新年來賀状

豈に料らんや新年賀状來たるを

溝漣拭涙讀遺篇

溝漣として涙を拭い遺篇を読む

【語釈】*家兄…他人に対して

自分の兄をいう *歳暮…年の

瀬 *黄泉…あの世。九泉 *
追念…過去のことを思い出すこ

と *温容…温和な顔かたち

*万感…様々な感情 *豈料…
どうして予想することができよ

うか *溝漣…涙のおちるさま

*遺篇…故人の残した書き物

【通釈】暮も押し迫った時期に
兄は帰らぬ人となった。その温
かな風貌等をいろいろ思い返す
と様々な思いが湧いてくる。正
月元旦にその兄からの年賀状が
来ようとは、どうして予想でき
たであろうか。流れ落ちる涙を
拭って、遺稿となった文章を読
むこととなった。

「今は亡き 兄の賀状を 元旦
に 受け取り読みて 感涙新
た」の心境を漢詩に詠む。

獨夜顧嘆功名少

仄起式(庚)韻

獨夜顧みて功名の少なきを嘆く

青木 美憲 (大20回)

半夜傷時酒獨傾

半夜時を傷んで酒獨り傾く

去来悔恨意難平

去来せる悔恨意平らかなり難し

何堪晩節功名少

何ぞ堪えん晩節功名の少なきを

【語釈】半夜…夜中、夜半 傷時…
時運を悲しんで 去来…行つた
り来たりすること 悔恨…あや
まちを残念に思う 晩節…老後
の生活 虫の聲 蕭々…もの寂
しいさま

蟲語蕭蕭到五更

蟲語蕭々として五更に到る

【通釈】深夜に過ぎ去った人生
を悲しんで独り酒を飲んで
いると、これまでの悔やむ事柄が
次々と消えては浮かび浮かんで
は消え、とても眠りにつけそう
もない。これまで功名に恵まれ
ず寂しい晩年をどう過ごせば良
いのだろうか。今、外で鳴く虫
の聲が自分の気持ちを表すかの
ように鳴いている。とうとう朝
方になってしまった。

絵画

「本郷 鐘坂」

F8号 水彩

尾本 政二 (大8)

東京の都心の景観は他の大都
市に比べて変化に富んでいるよ
うに思いま

す。特に山の
手は起伏が多

く、江戸の時
代からの趣の

ある名前の坂
や石段が点在

し街歩きを楽
しくしてくれ

ます。そして
思わぬところ

でひよっこり
現れる坂や石



「鎌倉極楽寺」

あじさいの道

F 16号 油彩画

滋野 輝彦 (大17)

「西新井大師山門」

F 4号 水彩

山崎 竹夫 (大19)

彫刻

仏像を彫るⅡ

川崎 憲夫 (大17)

素顔の鎌倉を描いてみました。
江ノ島電鉄「江ノ電」の極楽寺駅、長谷駅の周辺です。古くからの神社、仏閣も数多く、閑静な住宅街の中に古民家を改装したおしゃれなお店等もあります。特に線路際の紫陽花が咲く時節には散策をゆつくり楽しんでいる人も多く、この絵はこの一部を切り取ってきました。

左側に江ノ電が走っており、どこかで郷愁を感じる絵になりました。

家の近くにある空海（弘法大師）の寺、西新井大師総持寺の山門です。よく散歩に出掛け、お寺を一回りしてきます。コロナ禍の影響でお参りする人出も減り、門前のだんご屋や料理屋も数件店を閉めました。
春には桜、藤、牡丹、菖蒲と花が続きます。今年はお参りできなかったのを取り戻すことを願っております。

作今のコロナ騒ぎで教室が休講になったり、作品展が中止になったりしているものの相変わらず仏像彫刻を続けています。
今年で始めてから九年になり、彫り上げた仏像も大小合わせて12体ほどになりました。お陰で我が家の仏壇周りの出窓や床の間は仏像に占拠され、これ以上増えたとその置場に窮する状況です。

仏像は大別すると四つに分けられます。

一、如来・悟りを得た人。実在の釈迦のほか薬師、阿弥陀等で欲望がないため粗末な衣を身にまとい、太陽を仏とする大日如来だけは別格で体には賑やかな装飾品をまといっています。

二、菩薩…悟りを求めて修行中の者ですが修行しながらも人々を救う役目を持っています。菩薩単独の場合もありますが、如来を中尊にして脇侍として置かれる場合もあります。（釈迦如来の普賢・文殊菩薩、薬師如来の日光・月光菩薩、阿弥陀如来の観音・勢至菩薩等）

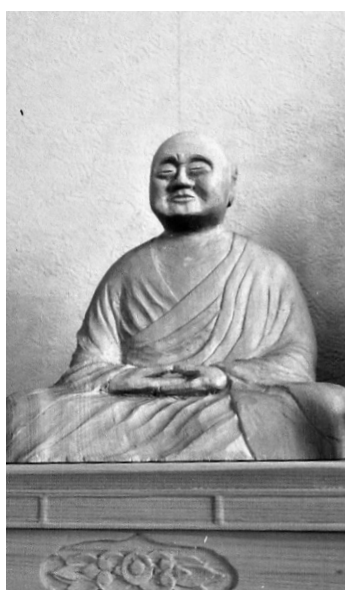
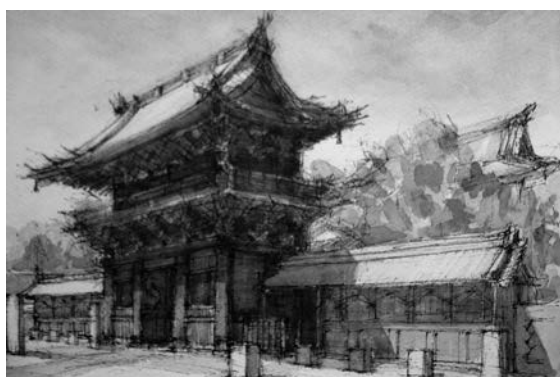
三、明王…ヒンドゥー教が基になっている密教特有の仏像で、如来の優しさだけでは救えない人々を仏教に導くためその多くは怒りの表情をしています。（不動明王が代表的）

それ以外では実在の高僧や釈迦の教えを受けた十大弟子等の肖像彫刻があります。

四、天…インドのバラモン教やヒンドゥー教の神で、仏教に取り入れられ守護神となったもので多くは甲冑を付け武器を持っています。（多聞天や持国天等の四天王や毘沙門天等）

同じ仏像でもそれを彫った人によって表情も全く違ってきます。先生に言わせると仏様のお顔は彫った人に似てくるといわれます。

また、私の尊敬する仏師は、仏像は彫るのではなく木の中におられる仏様を、木屑を取り払って迎え入れるのだそうです。仏師生活六十一年を過ぎてようやく到達した域に少しでも近づきたいと思っておりますが……



絵画・彫刻作品は左のQRコードからフルカラーでご覧いただけます。

令和3年度 東京支部年会費ご納付ありがとうございました。

令和3年11月30日現在

飯島大5	箸方	樋上不二子	竹内鋭二	佐々次郎	大4増田茂樹	中川弥次	清水善和	坂居俊治	大3中津宏毅	新宮毅夫	柴田茂夫	岡田巖夫	大2大津恒夫	川本茂	大1森田義正	工化1川村正	西澤淳司	加納	本24大谷毅丈夫	松本彌之祐	前川	本23伊藤弘	箕浦大6	寺本康郎	本22中川郁三	葛上宗一郎	本20神谷亨義	高木克幸	本19井上明郎	
刀祢信雄	瀧川雅一	尾本政弘	池田弘孝	大8山本芳三	柳原昌弘	東野和弘	西野義孝	富永重成	鈴木政夫	大7磯部一郎	藤原多喜雄	久木義雄	橋本長夫	中村博一	田中実康	斎藤高治	草生知男	川村和正	河合正紀	岡田亨	大谷毅丈夫	白井靖弘	伊藤弘	大6樋上泰功	中川郁三	龍口秀夫	神谷亨義	岡田和義	井上明郎	
田村寿夫	守谷貞夫	奥村啓一	稲村明也	大12松本隆一	松浦紀久雄	関合恵文	大11川久嗣	山田進孝	細谷孝孝	服部全孝	島山義生	中村壽男	坪井清一	大井健隆	井上善隆	大10吉田弘	森本忠徳	藤本裕一郎	平瀬武明	西田廣彦	西坂徹雄	中島勝司	田喜行雄	多喜忠彦	坂大9安田一雄	松岡健雄	林史欣			
柘野茂樹	黒田悦司	木下英男	奥村勇雄	大海澤義隆	穂山祥夫	大15古川浩司	羽村展世	中井健一郎	土井捷二	古山徹善	北村博	加藤善晃	小口夫	天木誠	安部	大14若山忠典	吉田久	納堂秀樹	徳地康弘	西藤和也	近藤達夫	小谷兼夫	岡崎政義	朝比奈冬雄	大13宮野幸雄	三宅久俊	堀川幸夫	堀内和雄	平居俊弘	中村弘
西川清悟	徳山秀雄	千葉清茂	小梶清司	岡田憲治	大18市岡隆治	山本節夫	西尾郁夫	並河日出夫	中根昌孝	中川瓊一	柘成三夫	聖原昭彦	柴野昭彦	滋林昭憲	栗田昭憲	蔵田憲夫	川崎憲之	岡本吉人	池ヶ谷利人	大17渡邊雅利	浜口栄治	嶋多豊彦	柴田彪治	木戸勝治	木津一平	尾関	大16吉田勇夫	山本謨夫	細江駿治	藤井芳令
岩谷克敏	大20持田晴夫	農守義文	角田健一	竹本進一郎	田中美憲	大20青木秀明	吉延等	村上誠	宮川澄男	松野筆治	濱井利明	土田延	戸井二雄	寺森利郎	竹邊徹	田隆行	芝山孝二	小門孝史	伊藤邦	大19和野博之	山崎竹夫	平田雅章	林弘学	西澤弘行	永田吉修	柴田典友	奥野六司	岡大19廣司	大19廣司	
山本正裕	堀江靖純	深谷以久夫	西村勝己	中岡浩三	中置辰司	玉口良三	品川悦夫	大23稲波信一	山脇一泰	山代真佐行	林嗣和	玉村利廣	大22山田忠	能島伸彦	北野敏彦	大22脇阪守修	米山下勝司	山田為久馬	細河文雄	上田潔	飯田	大21植野克美	大21堀尾重雄	平井善三	浜野信裕	河原正喜	植田兼司	上田求		

安井喜重	古澤義弘	濱塚純一	中尾佳史	高橋康彦	川久保勉	大25管	福田康夫	永田雅典	中村弘勝	田村昭郎	石黒俊一郎	大25済	中川和彦	大24管	鷺尾秀樹	味田耕二	斉藤裕士	河江泰平	大24管	湧川勝巳	本田吉弘	徳山恒男	田中安利	後藤雅之	加藤雅之	大24済	松井善嗣	堀内裕良	野村勝良	近藤修史	大矢武史	青木市次郎	大23管	
西川元啓	田中幸昭	天野利昭	大28管	森田祐光	篠田宏	大28済	西尾直	大27管	杉本利彦	小松利央	柏木浩次	大27管	溝口信悟	土居達也	木戸博文	岩崎博之	大27済	重田博	大26管	堀井仁	近森彦義	高見政史	上林好一	川勝弘之	大26管	久田英司	夏目忠彦	大北亨	大26済	岡本幸博	大25管			
松本幹	大30管	鮫島寛行	大30会	山口義明	村上雅宏	藤坂祐伸	神谷卓也	浅野昌信	大30管	和田昌喜	吉田繁治郎	野村孝治郎	島田大輔	大30済	飯塚浩彦	大29管	中野達也	中西健二	坂根徹	大29会	山本裕之	西森善雄	荒木俊一	大29管	吉本準義	鈴木教義	酒井嘉登	緒方俊輔	浅見徹	大29済	馬場敬夫	大28管		
森島秀明	穂積秀明	加藤篤	大34済	西野忠宏	中村伸一	大33会	清塚英徳	北野明	大33済	青山登	柳邨雅二	田嶋弘和	宇藤康浩	岩田雄一	大32会	米山孝二	水上康弘	酒井康就	居原幸伸	大32済	藤井登均	中村均	大31管	船橋哲夫	関正嗣	四方省吾	大31管	福田徳美	正面久	黒岩征一郎	大31済			
堀江俊雄	竹内竜太郎	大39会	市川耕彦	芦谷昌樹	大39管	北川昌樹	大38管	松澤進	大38会	岸野正史	大38管	柴田敬三	大38済	高木尚久	河合克典	大37管	服部進	天野優	大36管	内田幸次	大36済	能登英彦	西野智寛	大35管	小山真示	大34管	島本雅友	桂田和也	大34会	島津泰幸	大34管			
高橋勇己	大51済	徳川喜則	大50情	花房力	大47会情	越智道雄	大47フ	中智裕次	大47済	阪上康雄	清水雄	大46管	牛嶋宏也	大45フ	北尾聡子	飯塚志郎	大45済	久嶋淳嗣	大43フ	中村勇人	大43済	伊藤弘隆	大41会	畑英樹	大41管	岡本悠紀	大41済	中島勉	大40会	塚本正幸	立木賢一	大40済	大園祥一	大39管
市川誠	大20済	西尾郁夫	大17	関恵文	大11	山田進	大10	寄付金提供者		片桐顕	院31済	上村一仁	短31情	若林宏亘	短14	日高信次	短9	佐藤嘉代子	短1	大68企	中島哲	大62会情	廣野裕子	大56フ	西山博貢	大55会情	村田智史	小池一裕	大54情管	梅田祐貴子	大53社	松江大輔	大53済	

清塚徳	大33済	緒方俊輔	大29済	高見政史	大26管	中村勝	大25済
		岩口久雄	短6	越智道雄	大47フ	北川昌樹	大38管

編集所感

2021年はコロナ禍の中で、編集部の責任者が田川編集長から吉田編集長・和田副編集長へと変わり、引継ぎもZoom会議の中で行い編集会議も実施して109号の構成案を提案して議論しました。

紙面は陵水100周年に向けて本部及び東京支部の取り組みを重点に記事を纏めて「若手が参加したくなる陵水会」に活動を引き出していこうと編集員におねがいして進めてきて、最終紙面構成に何とか出来たと自負しております。会員の皆様には読んで頂き感想を編集部に挙げて頂きたいと思っております。

これからの良い指標づくりの手助けになるようにしていきます。

(京都支部)

(吉)

『日本に産経新聞があつてよかった』と 思っただけの新聞でありたい

産経電子版 For 産経ID

※お申し込みの際は、右記のキャンペーンコードをご記入ください。

1 5 1 0 0 1 0 0



相続税対策・申告、贈与税申告のご相談ならば

公認会計士 松澤進 事務所

法人税・所得税（確定申告）・相続税・贈与税・学校法人監査

〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 17 番 15 号 401

電話：03-6423-0383 FAX:03-6423-0382 HP:https://www.tax1st.jp

所長：公認会計士・税理士 松澤 進 大学 38 回・平成 2 年卒

ウインドサーフィン部第 6 代主将 会計士同好会昭和 63 年度会長



ジャパン SHIPPING サービス株式会社

代表取締役 武田 吉史 (大30回)

〒105-0004 東京都港区新橋 2-5-5 新橋 2 丁目 MT ビル 7 階

TEL:03-3580-7733(代) 03-3580-0711(直通)

Fax:03-3580-7737 URL http://www.jship.co.jp

E-mail:info@jship.co.jp(会社) yoshi-takeda@jship.co.jp

α⁺ ALPHA PLUS CO., LTD.

代表取締役 岡本 幸博 (大25回)

株式会社 アルファプラス

〒274-0813 千葉県船橋市南三咲3-5-48

TEL 090-3220-0595 FAX・TEL 047-449-3633

URL https://alpha-plus.co.jp/ E-mail: okamoto@alpha-plus.co.jp

- ・一般ファッション生地以外に吸水拡散して防水できる生地扱っています。
- ・電磁波防止、廃棄食品で染色した生地、和紙で作った生地もあります。

発行所
〒140-0001 東京都品川区南大井 6-17-15
第2タジマビル 401
公認会計士 松澤進事務所内
陵水会東京支部 支部長 能島伸夫
電話 03(6423) 0383
印刷所
〒110-0015 東京都台東区東上野 1-28-3
船舶印刷株式会社
電話 03(3831) 4181

※編集室のメールアドレスは
yoshid_i@roadocne.jp
(次号分々切日十月末日)
(携帯)
090(1738) 4718
吉田 勇夫 (大15回)
〒184-0014 小金井市貫井南町 5-8-14
(TEL・FAXとも)
042(403) 1764

「会報」原稿・情報「送付先

陵水会東京支部

ホームページ
アドレス

http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/

